

# 平成29年度 沖縄県未就学児調査

## 結果概要

---

平成30年7月9日

沖縄県子ども生活福祉部

(受託者 沖縄県子ども調査事業共同体)

## 平成29年度 未就学児調査

# 目次

調査の概要 . . . . .	3	6 地域・社会とのつながり . . . . .	40
1 保護者の働き方 . . . . .	16	7 健康 . . . . .	45
2 妊娠・出産期の状況 . . . . .	20	8 人生経験 . . . . .	59
3 保育所・幼稚園の利用状況 . . . . .	25	9 現在の暮らし . . . . .	62
4 5歳児の状況（就学に向けて） . . . . .	31	10 自由記述 . . . . .	69
5 保護者とのかかわり・ 子育てサークル等の利用 . . . . .	36		

# 調査の概要

## 1 | 調査の目的

未就学児の保護者を対象に、子どもたちを取り巻く社会や経済の状況が、子どもや保護者の日常生活にどのように影響しているかを調べ、今後の子育て施策のさらなる充実を目的に調査を実施。

## 2 | 調査実施主体

沖縄県から業務委託を受け、沖縄県子ども調査事業共同体が実施

- 一般社団法人沖縄県子ども総合研究所
- 学校法人沖縄大学
- NPO法人沖縄県学童・保育支援センター の3者によるコンソーシアム

## 3 | 調査期間

平成30年1月9日（火）～1月24日（水）

### 4 | 調査対象

1歳児（平成27年4月1日～平成28年3月31日生まれ）の保護者

5歳児（平成23年4月2日～平成24年4月1日生まれ）の保護者

### 5 | 調査方法

1歳児

市町村別人口構成比をもとに調査票配布数を算定し、沖縄県が各市町村へ住民基本台帳から配布数に相当する世帯を無作為抽出するよう依頼。その名簿をもとに郵送にて配布・回収（一部WEB回収）。

5歳児

対象年齢児の施設種別、市町村別の人口構成比を考慮しランダムに抽出した156施設へ配布。施設から対象児の保護者へ配布・回収いただき、施設から受託者に送付。

## 6 | 調査の主な内容

- 1) 家族構成等
- 2) 父母の職業
- 3) 母の妊娠期間中の状況
- 4) 子どもの暮らし
- 5) 社会とのつながり
- 6) 健康状態
- 7) 人生経験
- 8) 現在の暮らし

## 7 | 回収状況

対象児	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
1歳児	6,790	2,031	29.9%	1,929	28.4%
5歳児	4,052	2,839	70.1%	2,800	69.1%

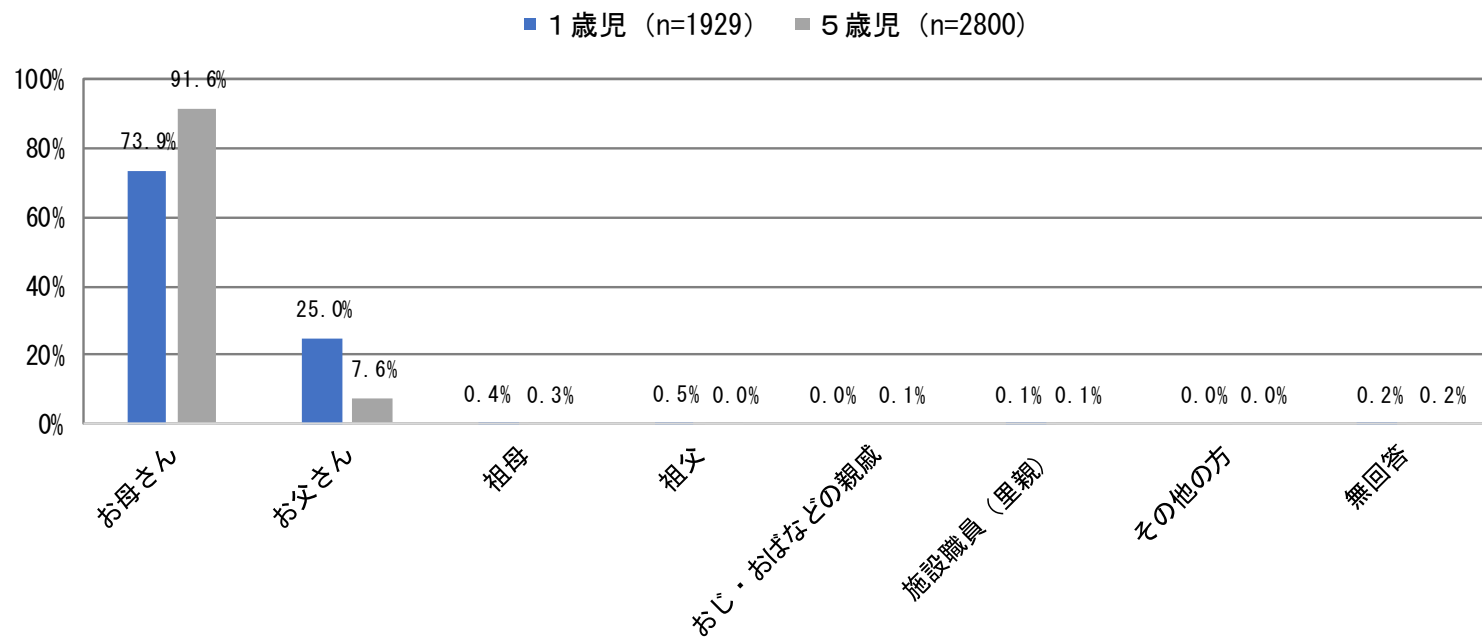
## 8 | 学識協力者

上原 健二	(沖縄女子短期大学)	中村 強士	(日本福祉大学)
加藤 彰彦	(沖縄大学名誉教授)	山野 良一	(沖縄大学)
鎌田 佐多子	(沖縄女子短期大学)	湯澤 直美	(立教大学)
小西 祐馬	(長崎大学)	吉葉 研司	(名古屋学芸大学)
島村 聡	(沖縄大学)		

※敬称略、50音順

## 回答者属性

母親が多くを占めており、1歳児では約7割、5歳児では約9割

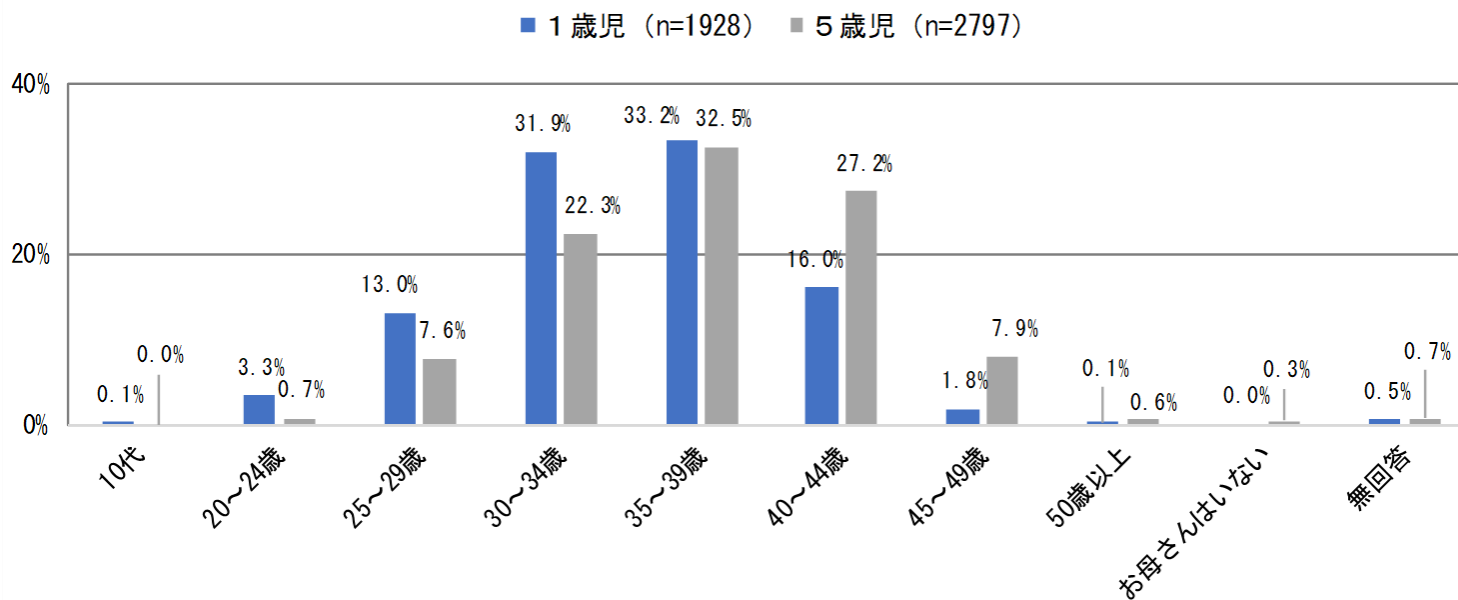




## お子さんの父母の年齢

お母さん

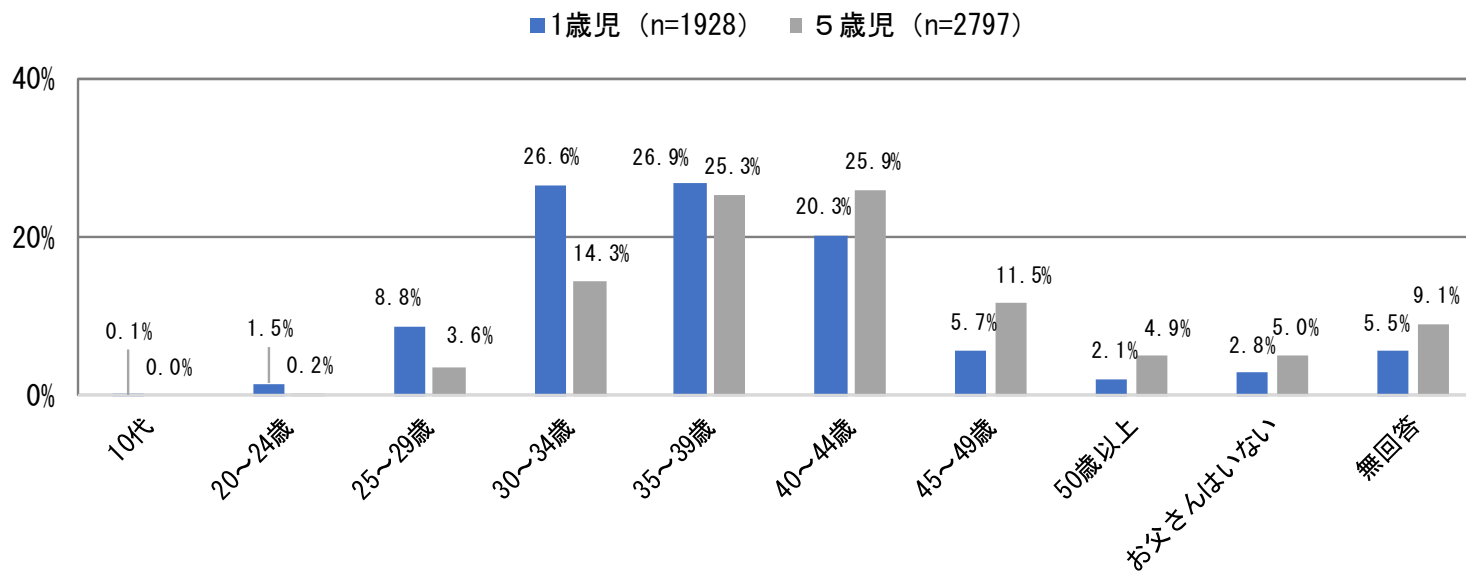
1歳児では30代が、5歳児では30代後半から40代前半が多い



## お子さんの父母の年齢

お父さん

1歳児では30代が、5歳児では30代後半から40代前半が多い



## 所得区分①

調査票における世帯の人数と世帯収入（税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入）から等価可処分所得（※）を算出し、世帯の困窮程度を3つの区分に分類し、分析をしています。

分類にあたっては、厚生労働省の「平成28年度国民生活基礎調査」における貧困線（等価可処分所得の中央値の半分にあたる122万円、中央値は245万円）を基準に、回答者の約半数を占める層（本調査において「一般層」という。）と比較することで、より詳しく経済状況による影響を分析するため貧困線の1.5倍の額となる183万円でも区分を設定しました。

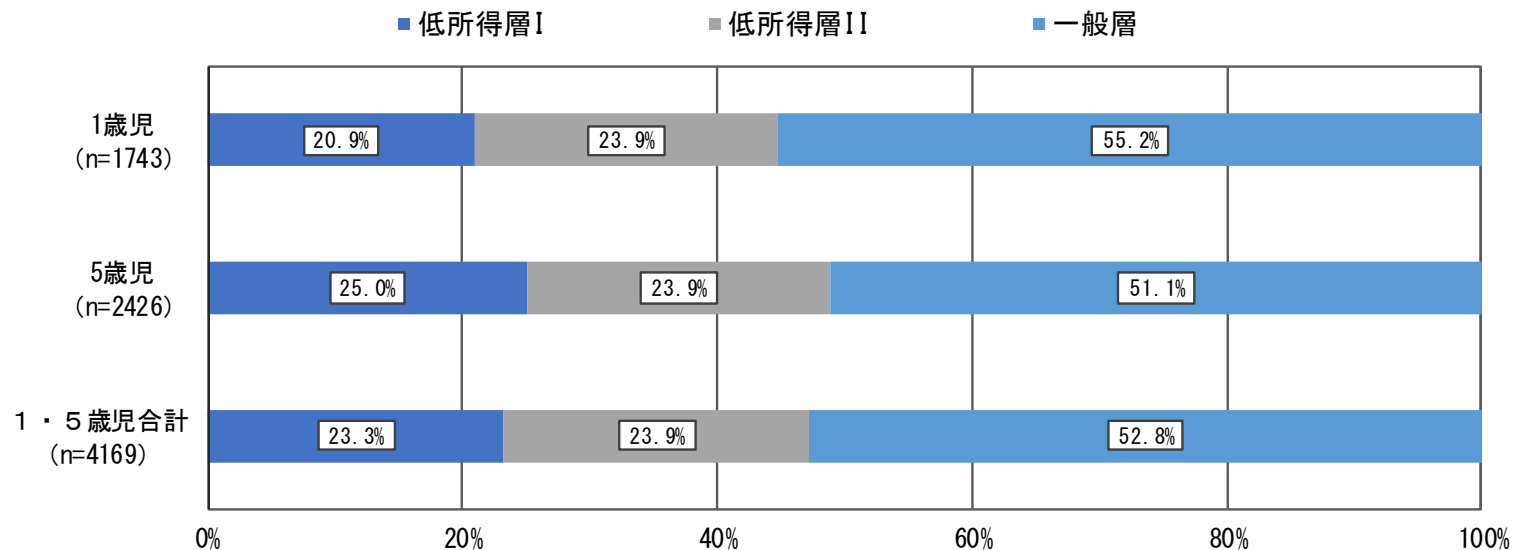
なお、本調査における世帯所得の回答のみで1歳児、5歳児の正確な貧困率を測ることはできません。経済状況が及ぼす生活面での影響を把握するためこのような区分を設けております。

区分の名称	貧困線をベースにした額	所得	(参考) 4人世帯の場合の年収
低所得層Ⅰ	122万円未満 (1.0倍未満)	低	年収244万円未満
低所得層Ⅱ	122万円～183万円未満 (1.0～1.5倍未満)	↓	年収244万円～366万円未満
一般層	183万円以上 (1.5倍以上)	高	年収366万円以上

※ 等価可処分所得とは、世帯の可処分所得（手取り収入）を世帯人数の平方根で割った額のことを指します。

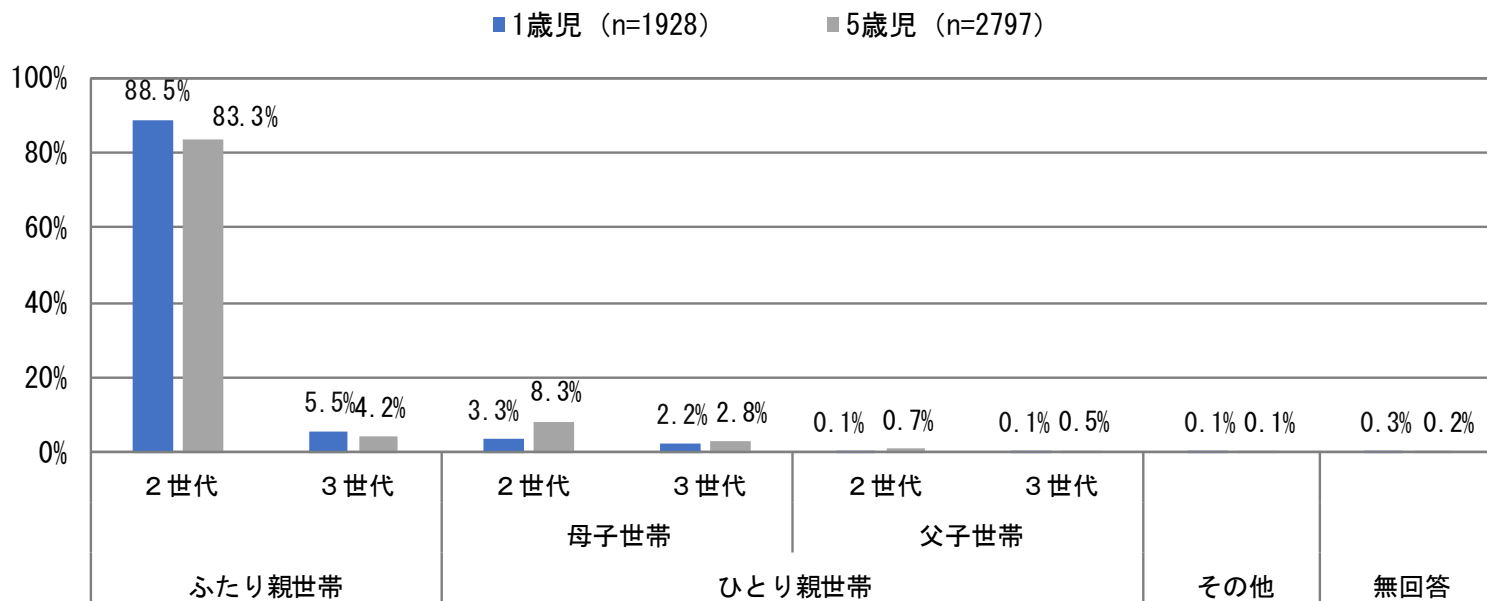
## 所得区分②

困窮世帯の割合を示す低所得層Iは、  
1歳児では20.9%、5歳児では25.0%



## 世帯類型

ひとり親世帯（母子・父子世帯）の割合は、1歳児5.6%、5歳児12.2%

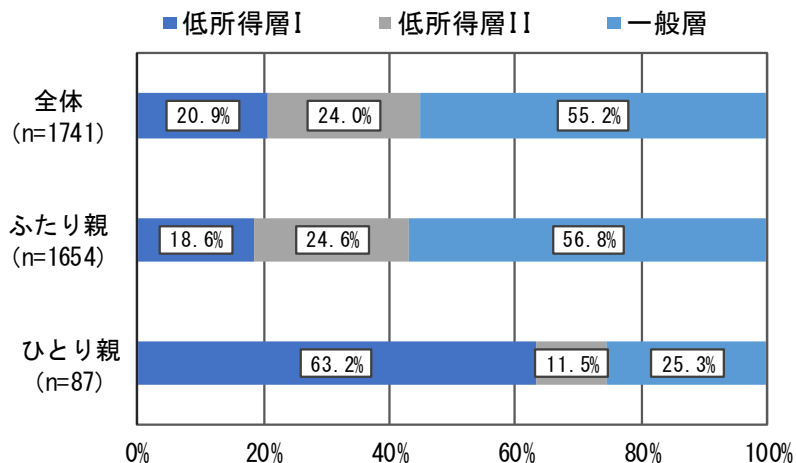


## 世帯類型別（ひとり親世帯・ふたり親世帯）にみた経済状況

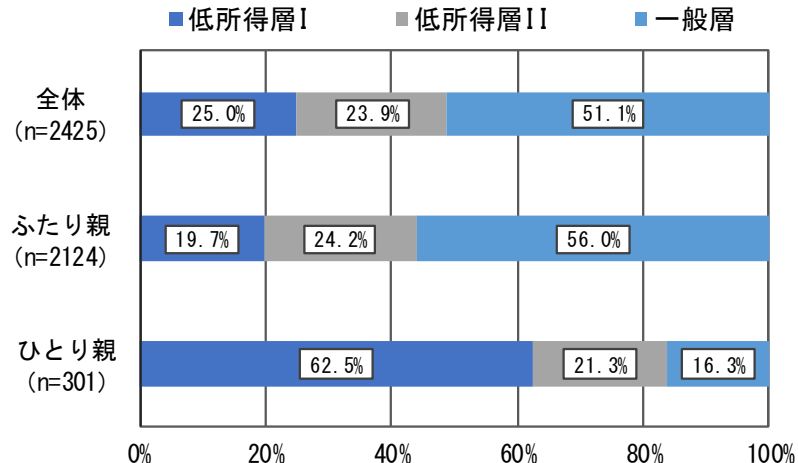
1・5歳児ともに、ひとり親世帯のほうが低所得層の割合が高い

※ 1歳児のひとり親世帯のサンプル数が少ないため、分析には留意が必要である。

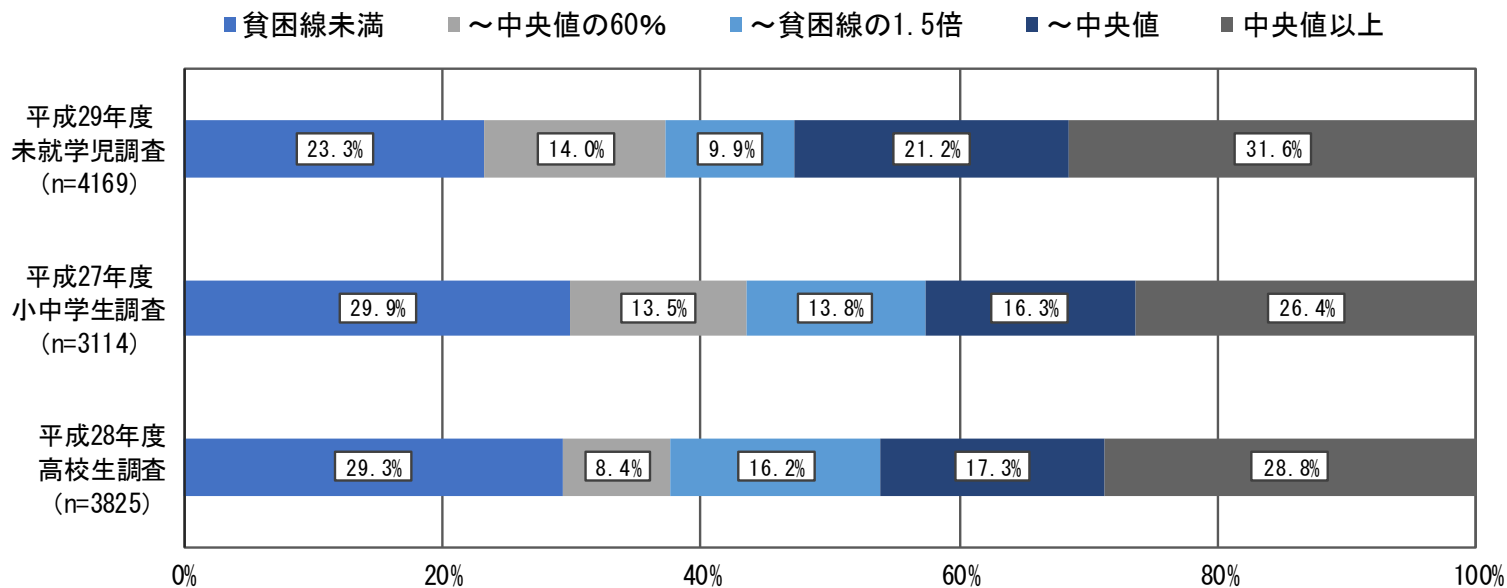
【1歳児】世帯類型別にみた経済状況  
（ふたり親世帯・ひとり親世帯のみ）



【5歳児】世帯類型別にみた経済状況  
（ふたり親世帯・ひとり親世帯のみ）



## EUなどで取り入れられている中央値の60%を貧困線とする区分も取り入れた 今回の調査と過去調査の分布



注) 平成27年度小中学生調査は、「平成25年度国民生活基礎調査」において推計された貧困線122万円と中央値244万円で算出。平成28年度高校生調査は、同調査に消費者物価指数の変動から算出した係数(103.95)をかけて、貧困線127万円で算出(中央値は254万円で算出した)。

# 1 保護者の働き方

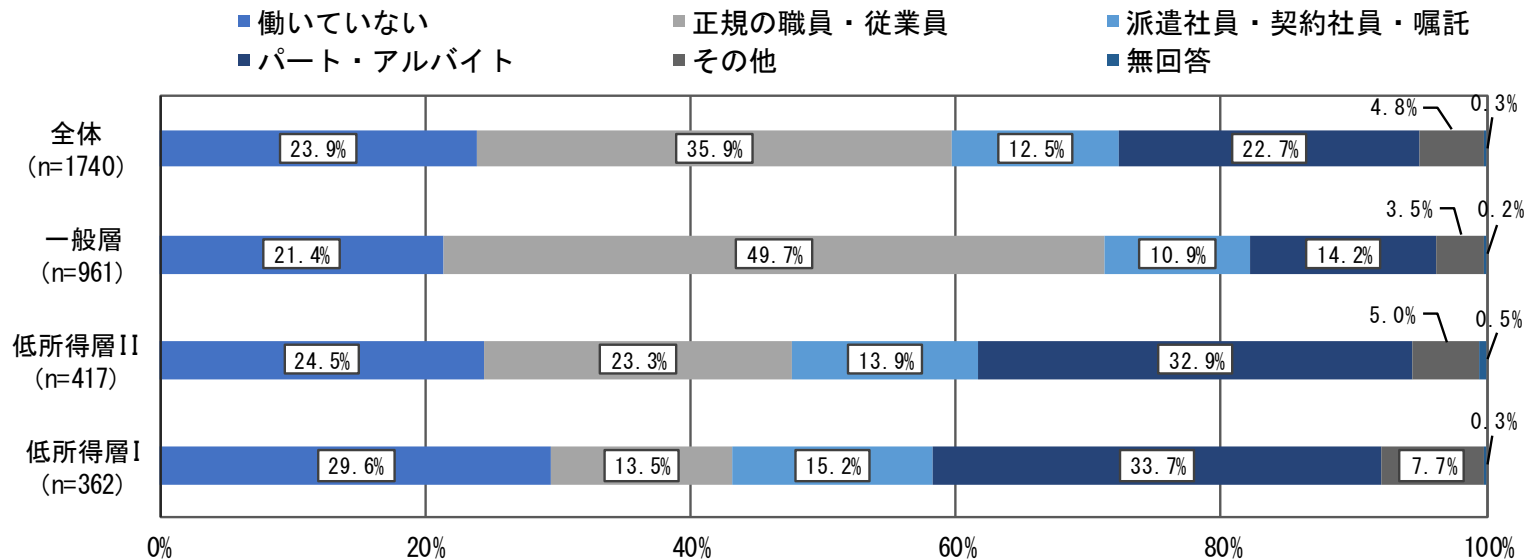
※掲載の図表番号は、本調査報告書のものを採用しております



# 1 保護者の働き方

## 母親の就労状況①

図 1-1-1 【1歳児】お母さんの現在のお仕事の状況を教えてください。

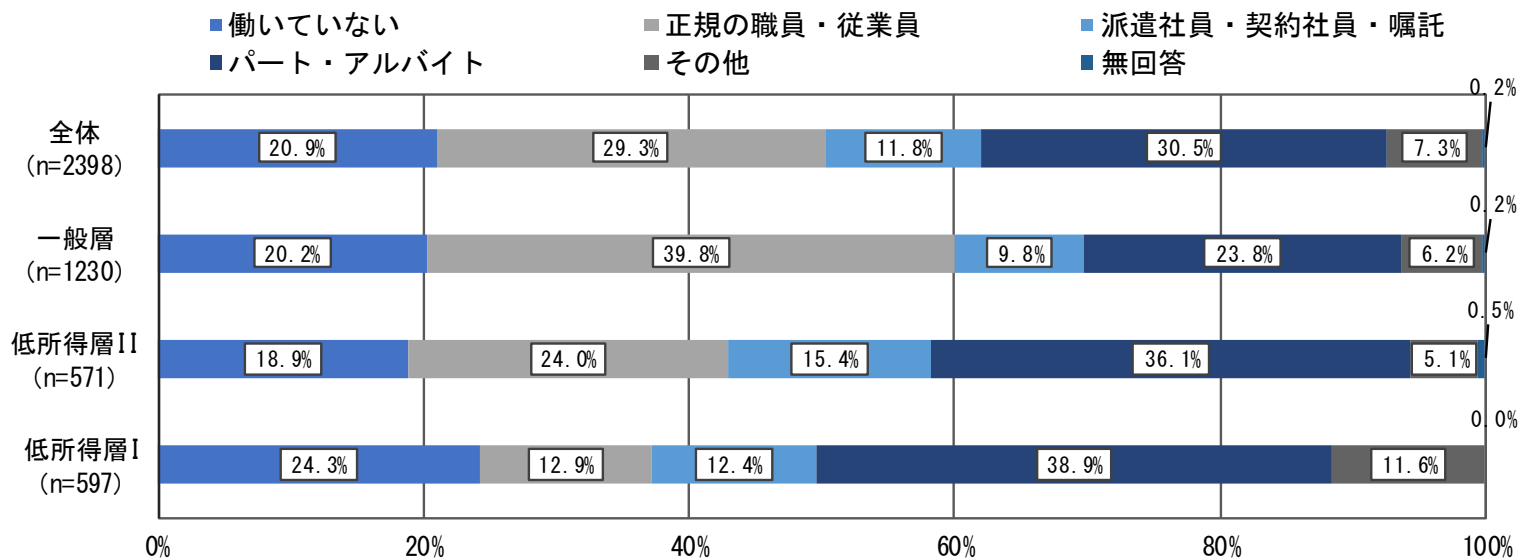


- 1 低所得層になるほど、正規職員が少なく、非正規職員が多い。
- 2 働いていない母親の割合は経済状況によって差異がある。
- 3 1歳児（実際の年齢は1歳または2歳）の母親の働く割合は約76%となっており、全国（※）と比べて、母親が働いている割合が非常に高い。（※末子が1歳または2歳で働いている母親の割合（全国）：約50-54%）  
（「平成28年国民生活基礎調査 1世帯票 第1巻 第083表 児童のいる世帯数，末子の母の年齢（5歳階級）・末子の母の仕事の有無・末子の年齢階級別」）

# 1 保護者の働き方

## 母親の就労状況②

図1-1-2 【5歳児】お母さんの現在のお仕事の状況を教えてください。



- 1 低所得層になるほど、正規職員が少なく、非正規職員が多い。
- 2 働いていない母親の割合は経済状況によって差異がある。
- 3 5歳児（実際の年齢は5歳または6歳）の母親の働く割合は約79%となっており、全国（※）と比べて、母親が働いている割合が非常に高い。（※末子が5歳-6歳で働く母親の割合（全国）：約64-67%）  
（「平成28年国民生活基礎調査 1世帯票 第1巻 第083表 児童のいる世帯数，末子の母の年齢（5歳階級）・末子の母の仕事の有無・末子の年齢階級別」）

# 1 保護者の働き方

## 父親の労働時間

図 1-6-3 【1歳児／父親】一週間の平均的な労働時間  
(残業時間を含む)

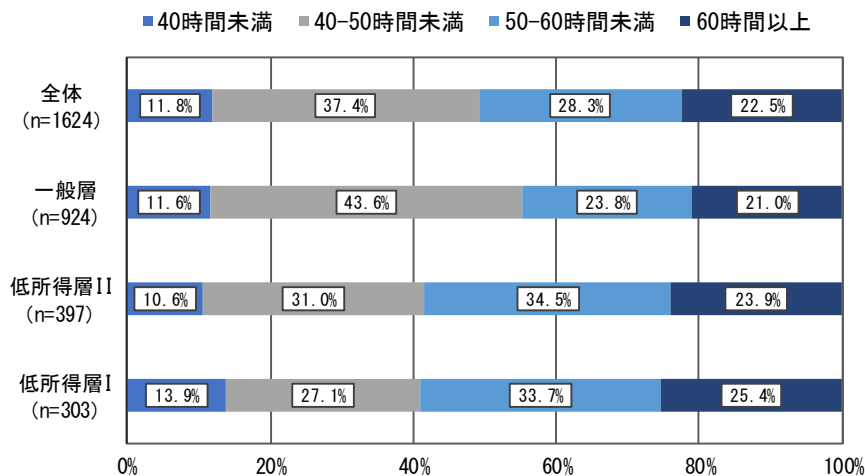
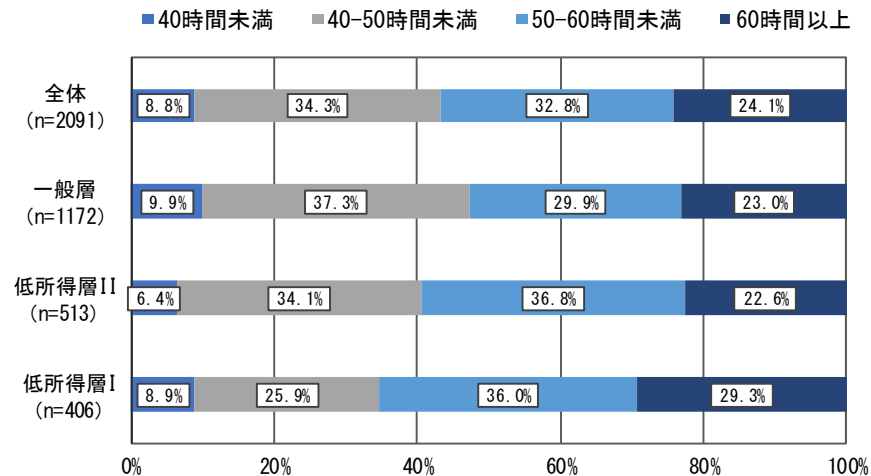


図 1-6-4 【5歳児／父親】一週間の平均的な労働時間  
(残業時間を含む)



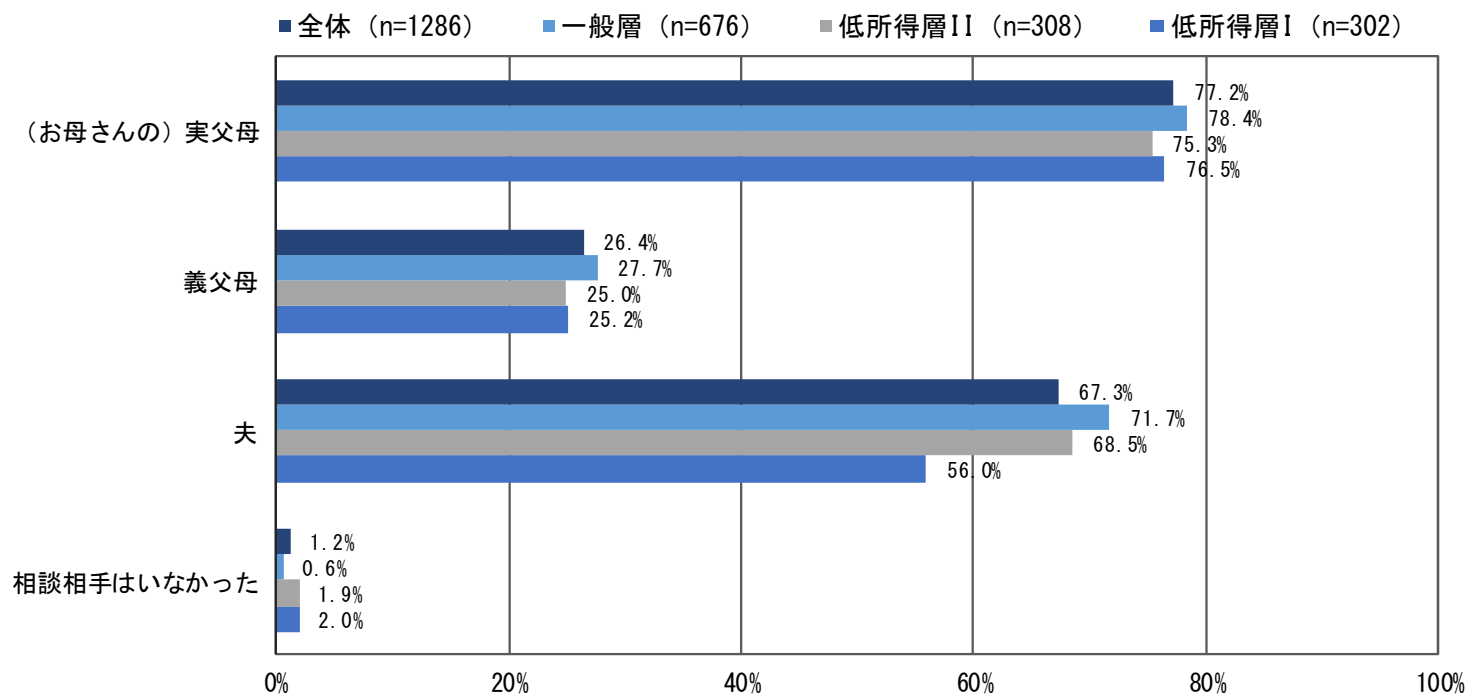
- 1 週60時間以上という極端な長時間労働の父親が1歳児：約23%、5歳児：約24%と4分の1近くに及ぶ。
- 2 週50時間以上働く父親の割合は、一般層に比べ低所得層IやIIでその割合が高く、低所得層Iで1歳児・5歳児ともに10ポイント以上の差があり、低所得層IIで6-13ポイントの差があった。

## 2 妊娠・出産期の状況

## 2 妊娠・出産期の状況

### 妊娠期間中の相談相手①

図2-2-1 【1歳児】お子さんを妊娠している間、妊娠や出産・今後の育児などに関する悩みや心配なことをお母さんが相談できる方はいましたか。（複数回答）

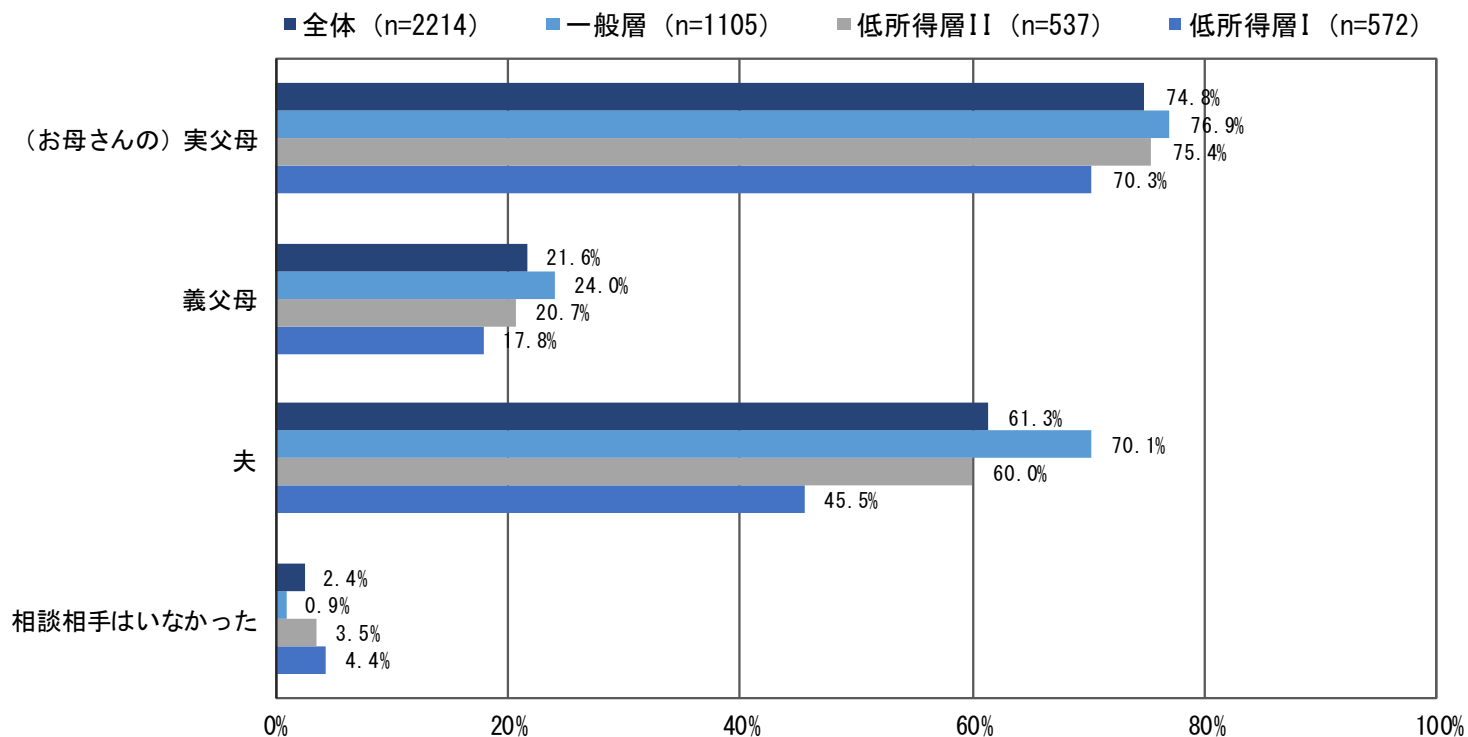


- 1 妊娠期の相談相手についてお母さんに尋ねたところ、「夫」と回答した割合は、一般層が71.7%に対して低所得層IIが68.5%、低所得層Iが56%と、低所得層では夫の関わりが低くなっている。

## 2 妊娠・出産期の状況

### 妊娠期間中の相談相手②

図2-2-2 【5歳児】お子さんを妊娠している間、妊娠や出産・今後の育児などに関する悩みや心配なことをお母さんが相談できる方はいましたか。（複数回答）

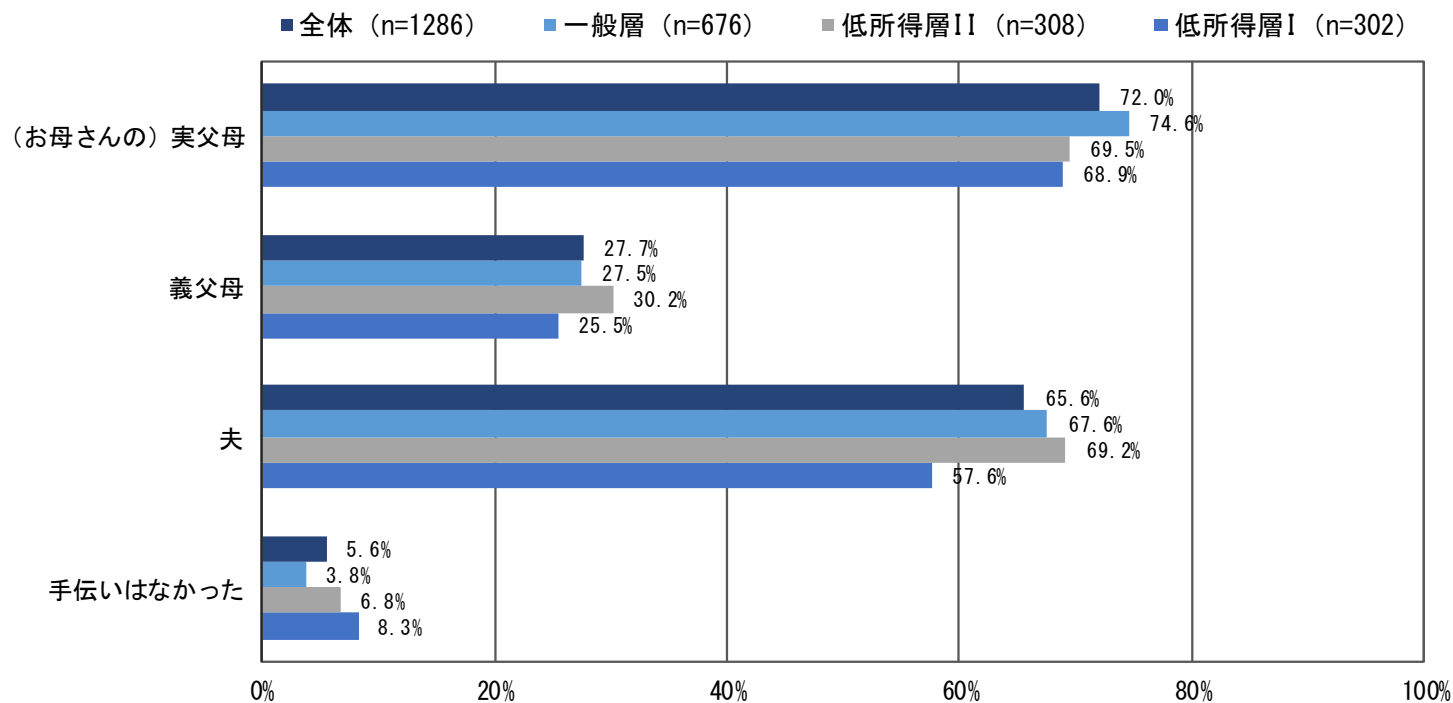


- 1 妊娠期の相談相手についてお母さんに尋ねたところ、「夫」と回答した割合は、一般層が70.1%に対して低所得層IIが60.0%、低所得層Iが45.5%と、低所得層では夫の関わりが低くなっている。

## 2 妊娠・出産期の状況

### 産後の手伝い①

図2-3-1 【1歳児】産後、家事炊事や子育てなどの手伝いをしてくれた方はいましたか。  
(複数回答)

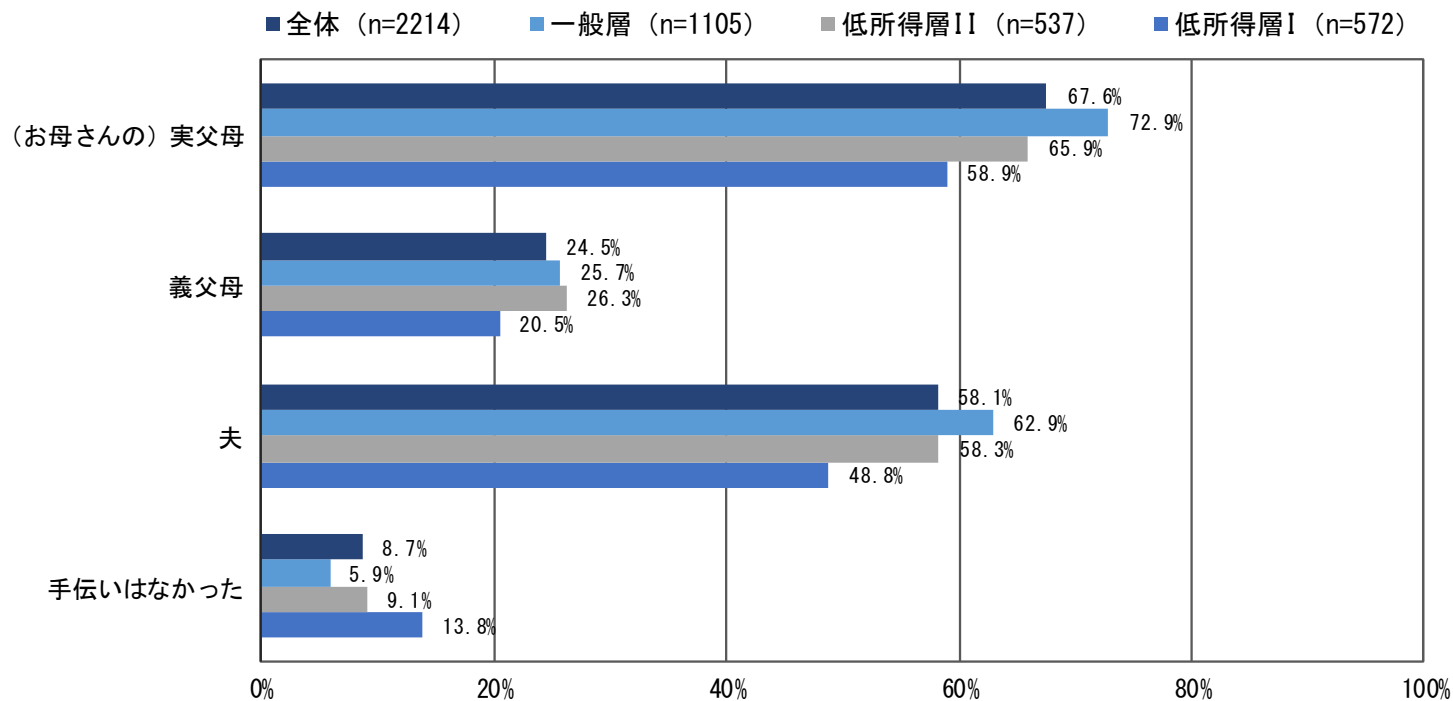


- 1 妊娠期と比べ、低所得層では実父母の関わりが低下し、義父母や夫の協力度合いがやや高くなっている。
- 2 妊娠期同様、低所得層 I では夫の関りが低くなっている。
- 3 「手伝いはなかった」とする低所得層 I が8.3%と高くなっている。

## 2 妊娠・出産期の状況

### 産後の手伝い②

図 2-3-2 【5歳児】産後、家事炊事や子育てなどの手伝いをしてくれた方はいましたか。  
(複数回答)



- 1 妊娠期と比べ、全体的に協力度合いが下がるが経済状況による差が大きくなり、一般層と低所得層 I を比較すると、実父母で14ポイント、義父母で5.2ポイント、夫では14.1ポイント低下している。
- 2 妊娠期同様、低所得層 I 及び低所得層 II では夫の関りが低くなっている。
- 3 「手伝いはなかった」とする低所得層 I が13.8%と高くなっている。

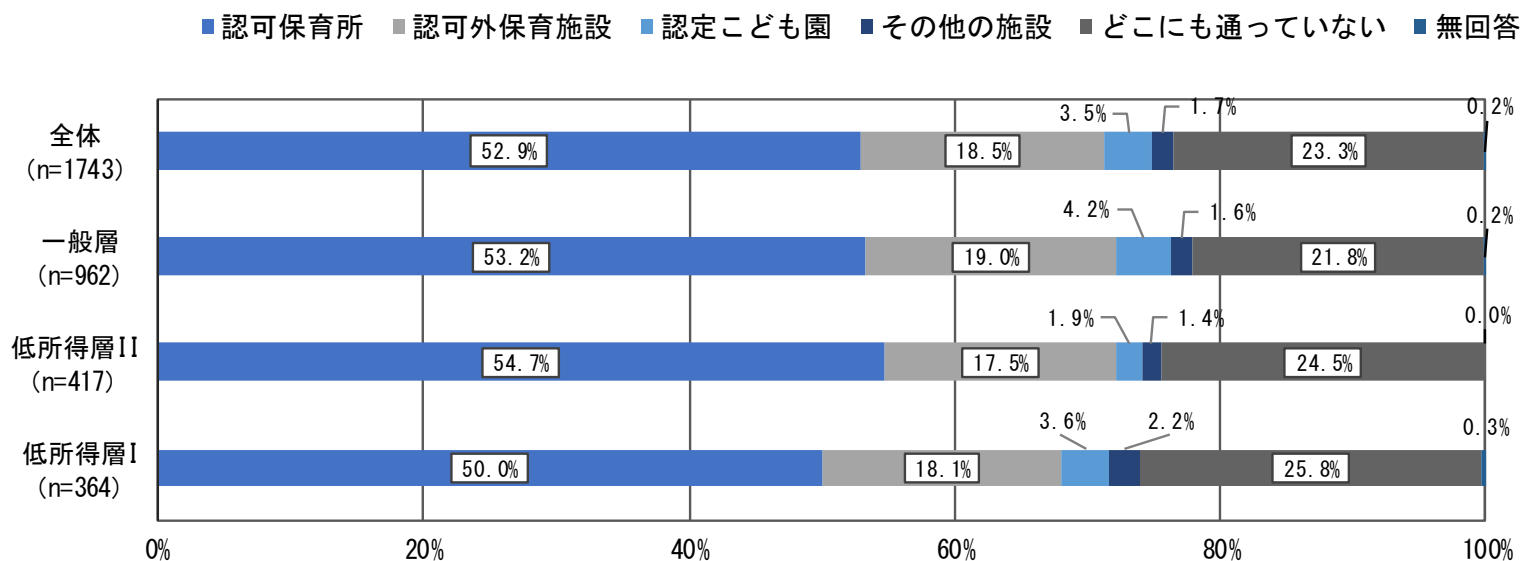


### 3 保育所・幼稚園の利用状況

### 3 保育所・幼稚園の利用状況

#### 施設の利用状況①

図3-1-1 【1歳児】お子さんは、現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか。

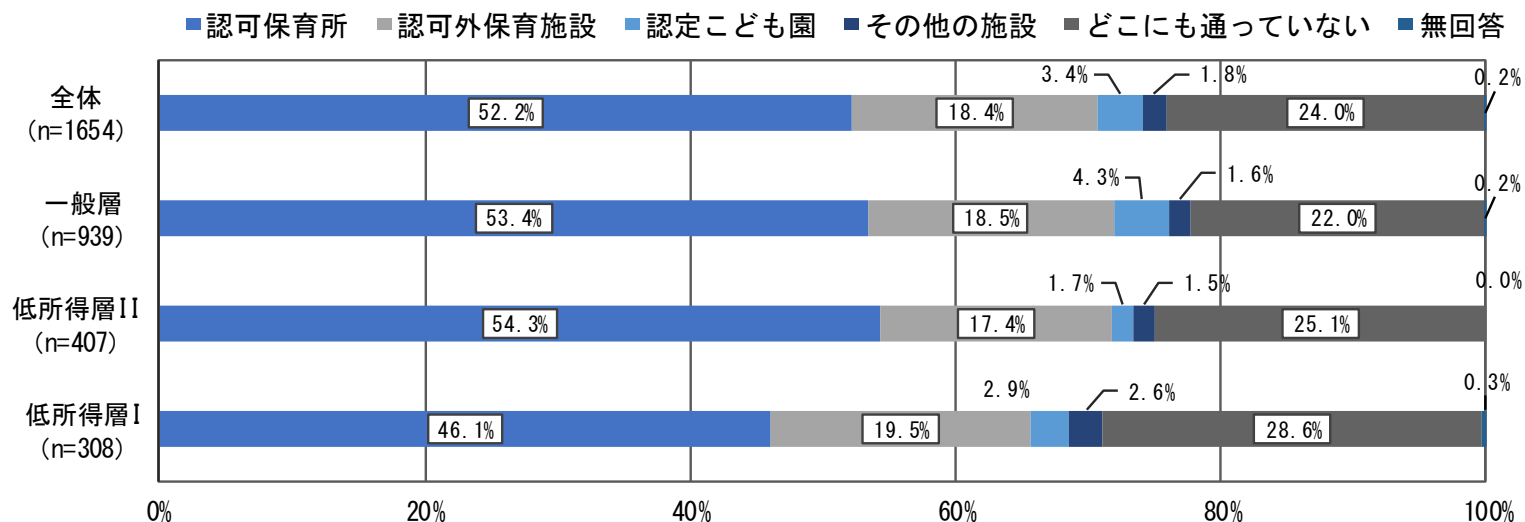


1 低所得層 I は、「認可保育所」の利用率が低く、「どこにも通っていない」の割合も高い。

### 3 保育所・幼稚園の利用状況

#### 施設の利用状況②

図3-1-5 【1歳児】おさんは現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか。  
(ふたり親世帯のみ)

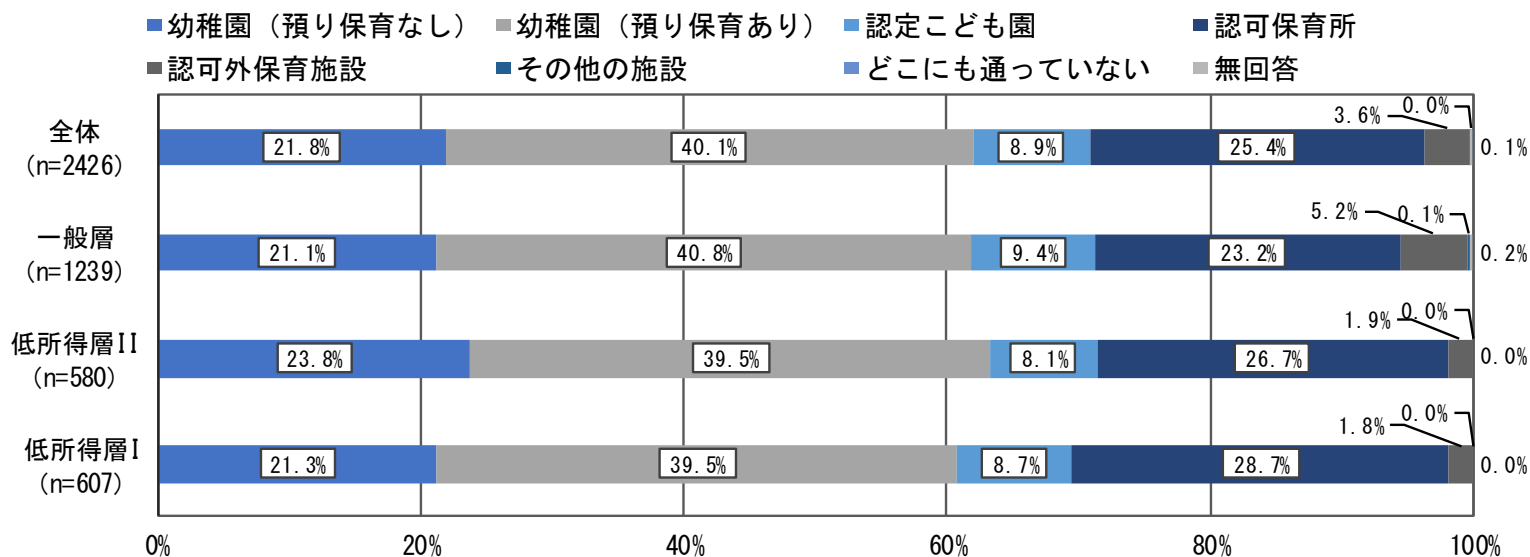


- 1 「ふたり親世帯」だけを見ると、全体に比べ、低所得層Iで「認可保育所」の利用割合がやや低くなる一方で、「どこにも通っていない」の割合が高くなり、経済状況による保育利用割合の差がより明確となっている。

### 3 保育所・幼稚園の利用状況

#### 施設の利用状況③

図3-1-2 【5歳児】お子さんは、現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか。



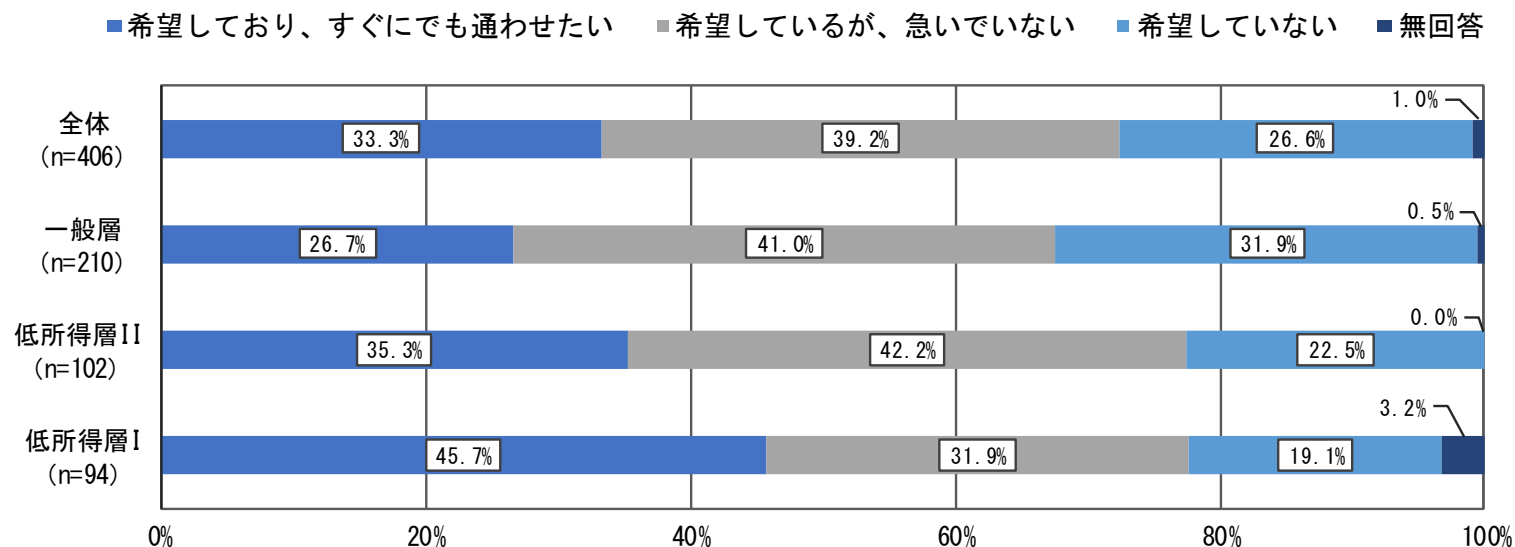
- 1 5歳児においては、幼稚園（預り「あり」および「なし」を含む）が約62%、認可保育所が約25%、認定こども園が約9%、認可外保育所が約4%となっている。  
 全国データ（※）では4歳以上で、幼稚園が46.0%、認可保育所が42.1%、認定こども園等が9.6%、認可外保育施設が2.3%となっており、本県の5歳児では幼稚園の利用が多い。

※ 稲川 登史子 「1. 幼い子ども・家族の今 B 増える共働き世帯と増大する保育需要」全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書2017』ひとなる書房

### 3 保育所・幼稚園の利用状況

#### 保育所などの利用希望

図3-3-1 【1歳児】現在、保育所などの利用を希望していますか。

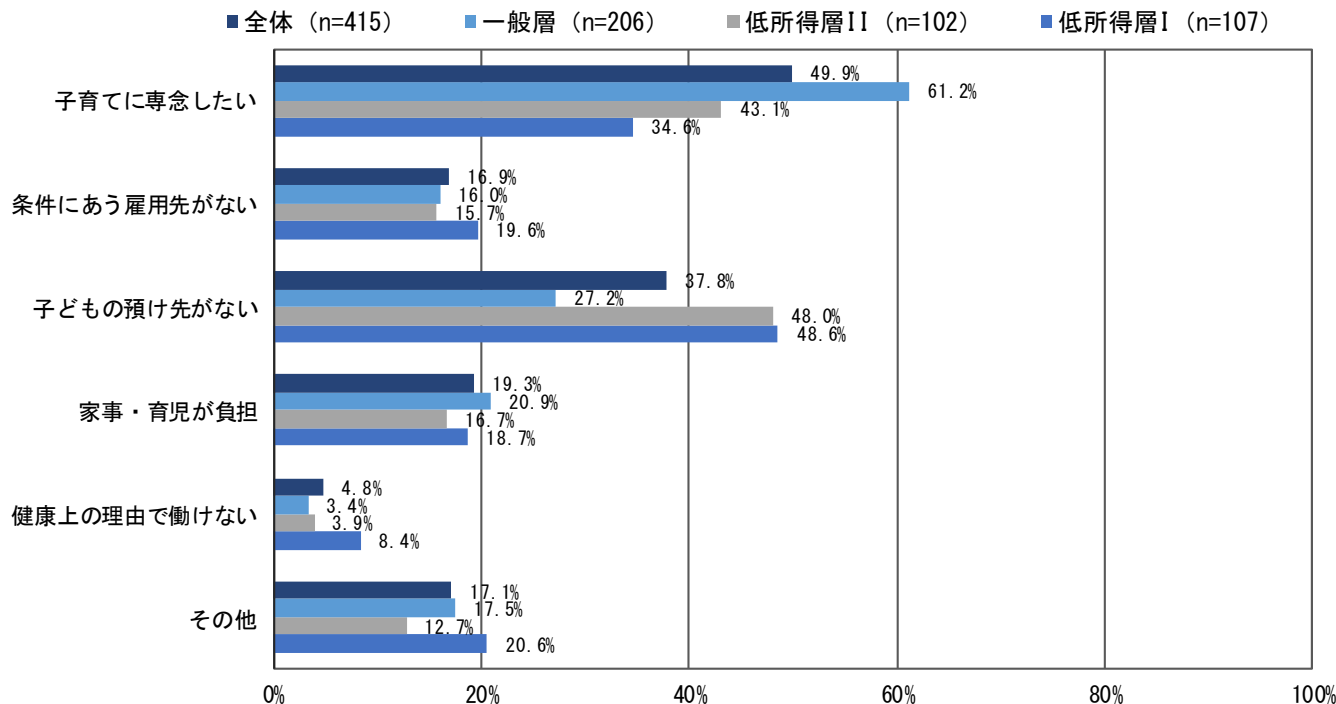


- 1 「どこにも通っていない」と答えた人に対し、保育所などの利用を希望しているかどうか尋ねたところ、「希望しており、すぐにでも通わせたい」が全体で33.3%となっており、その内訳では、低所得層I（45.7%）、と低所得層II（35.3%）が高くなっている。

### 3 保育所・幼稚園の利用状況

#### 働いていない理由（母親—1歳児）

図1-4-1 【1歳児／母親】働いていない理由を教えてください。（複数回答）



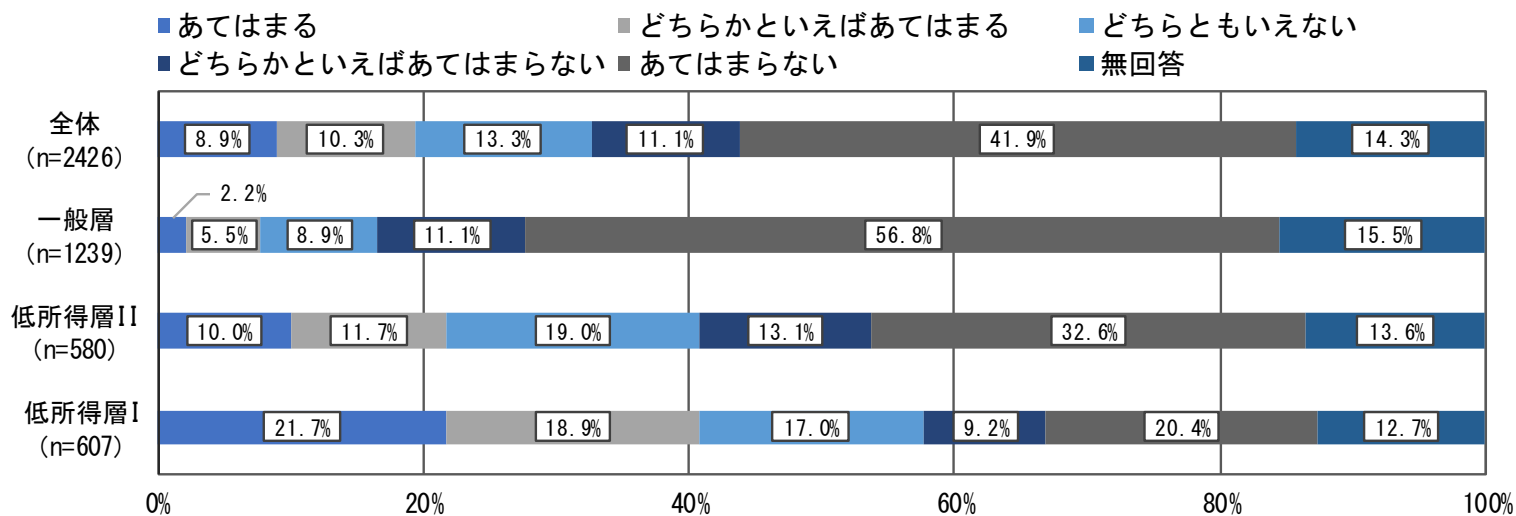
- 1 保育利用に関連して、保護者の働き方（第1章）の質問の中で、働いていない母親にその理由を尋ねたところ、全体で見ると「子育てに専念したい」が一番高く、「子どもの預け先がない」が2番目に多い。
- 2 経済状況による傾向も見え、「子育てに専念したい」や「家事・育児が負担」という理由は一般層で高く、「子どもの預け先がない」は低所得層I・IIで高い傾向にあり、低所得層では保育所の利用を希望しているものの、預け先がないことがうかがえる。

## 4 5歳児の状況(就学に向けて)

## 4 5歳児の状況（就学に向けて）

### 小学校入学に向けての準備①

図4-1-1 【5歳児】4月の小学校入学に向けての準備について  
— 1. 学用品やランドセルの購入費用が不足しそう —



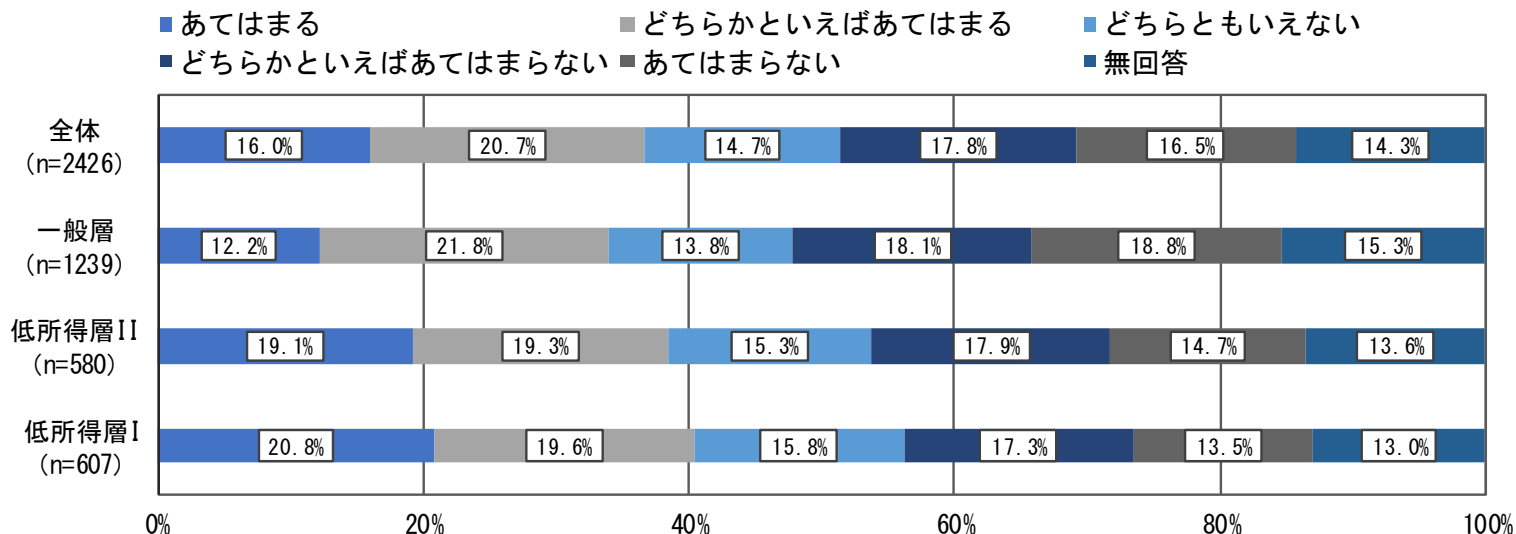
- 1 5歳児の保護者に小学校入学に向けた準備について、「学用品やランドセルの購入費用が不足しそう」かどうか尋ねたところ、経済状況による差異がみられ、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、一般層の7.7%に対して低所得層Iでは4割を超えている。



## 4 5歳児の状況（就学に向けて）

### 小学校入学に向けての準備②

図4-1-2 【5歳児】4月の小学校入学に向けての準備について  
—2. 小学校での生活になじめるか心配—

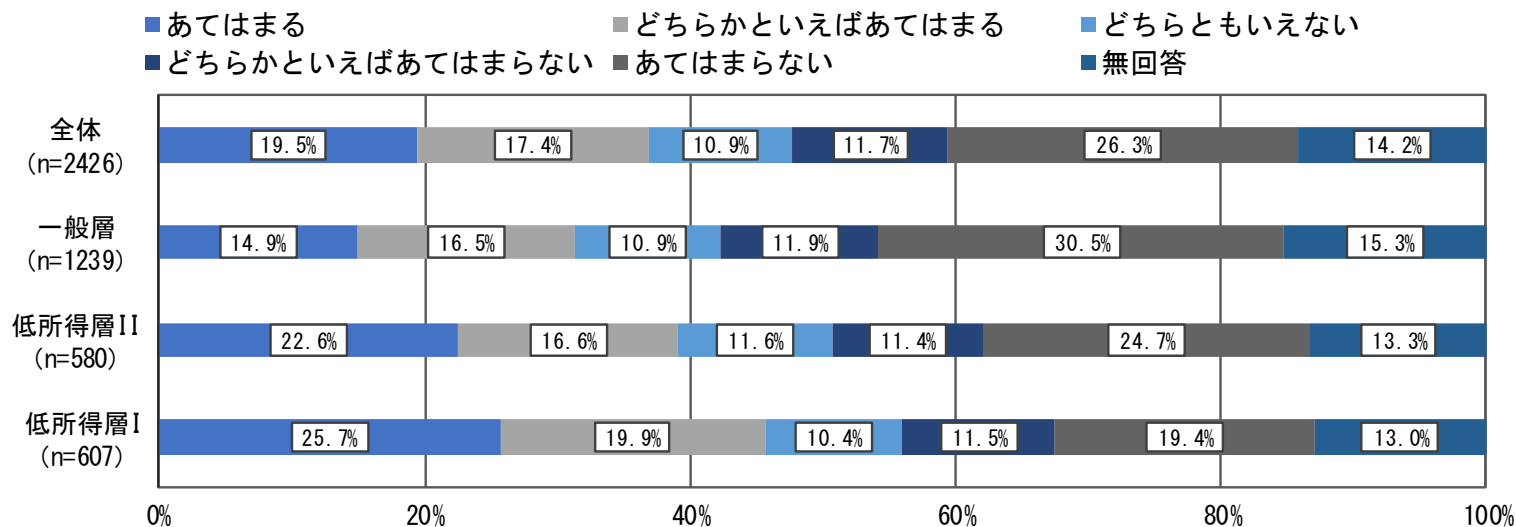


- 1 5歳児の保護者に小学校入学に向けた準備について、「小学校での生活になじめるか心配」かどうか尋ねたところ、経済状況による差異がみられ、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、一般層の34%に対して低所得層Iでは4割を超えている。

## 4 5歳児の状況（就学に向けて）

### 小学校入学に向けての準備③

図4-1-3 【5歳児】4月の小学校入学に向けての準備について  
—3. 放課後過ごす場所に不安がある—

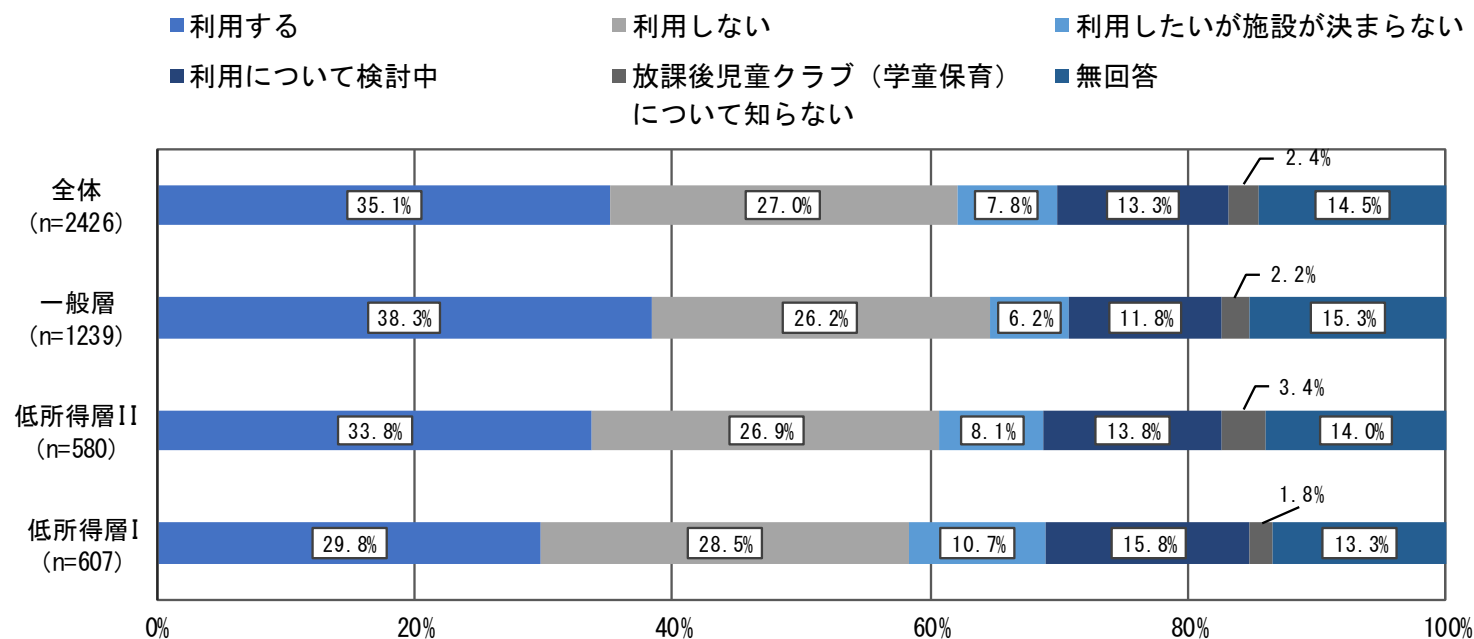


- 1 5歳児の保護者に小学校入学に向けた準備について、「放課後過ごす場所に不安がある」かどうか尋ねたところ、経済状況による差異がみられ、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、一般層の31.4%に対して低所得層Iでは4割を超えている。

## 4 5歳児の状況（就学に向けて）

### 放課後児童クラブ（学童保育）の利用について

図4-2-1 【5歳児】お子さんが小学校1年生になったら、放課後児童クラブ（学童保育）を利用する予定はありますか。



- 1 5歳児の保護者に、放課後児童クラブ（学童保育）の利用予定を尋ねたところ、全体で「利用する」が35.1%、「利用したいが施設が決まらない」が7.8%、「利用について検討中」が13.3%と、利用予定が5割を超えている。
- 2 「利用する」と答えた割合は、低所得層ほど低くなっている。

## 5 保護者とのかかわり・ 子育てサークル等の利用

# 5 保護者とのかかわり・子育てサークル等の利用

## 保護者とのかかわり①

図5-1-5 【1歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊べますか。  
— 平日／父親 —

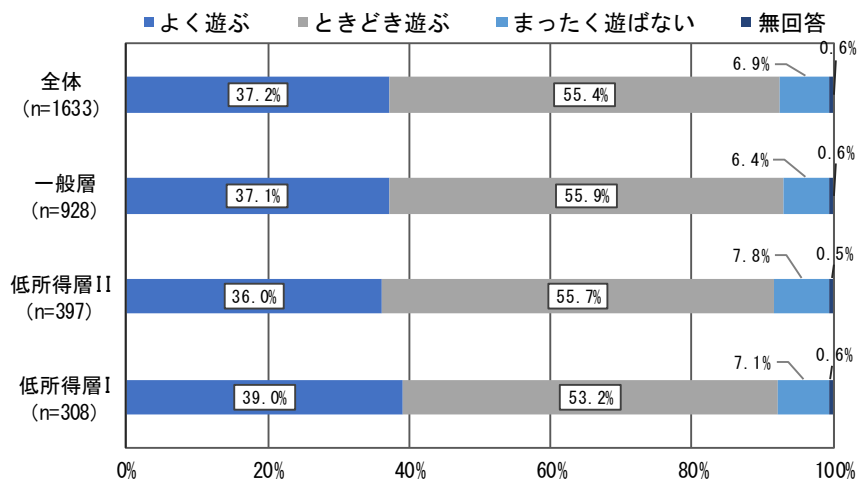
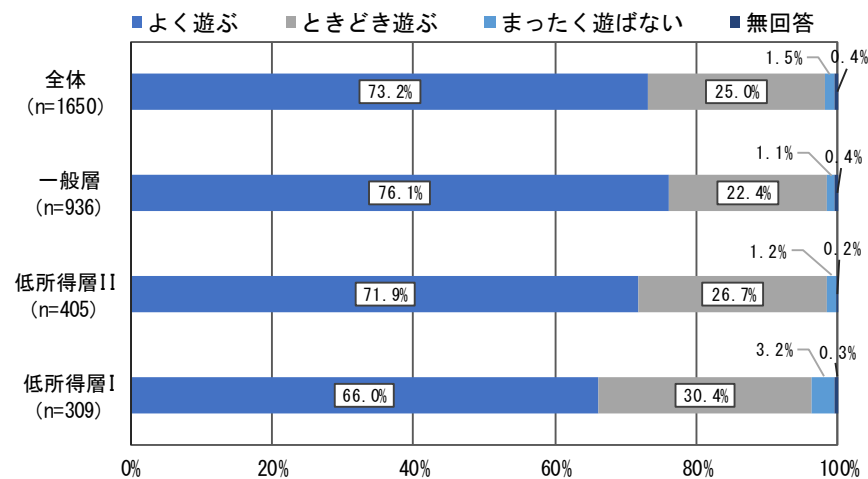


図5-1-6 【1歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊べますか。  
— 休日／父親 —



1 父親に子どもと遊ぶか尋ねたところ、平日は経済状況による差異がないものの、休日に「よく遊ぶ」と回答した割合は一般層の76.1%に比べ、低所得層Iは66.0%と低く、「まったく遊ばない」も低所得層Iでは約3%と他の層の1%程度に対して高くなっている。

# 5 保護者とのかかわり・子育てサークル等の利用

## 保護者とのかかわり②

図5-1-7 【5歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。  
— 平日／父親 —

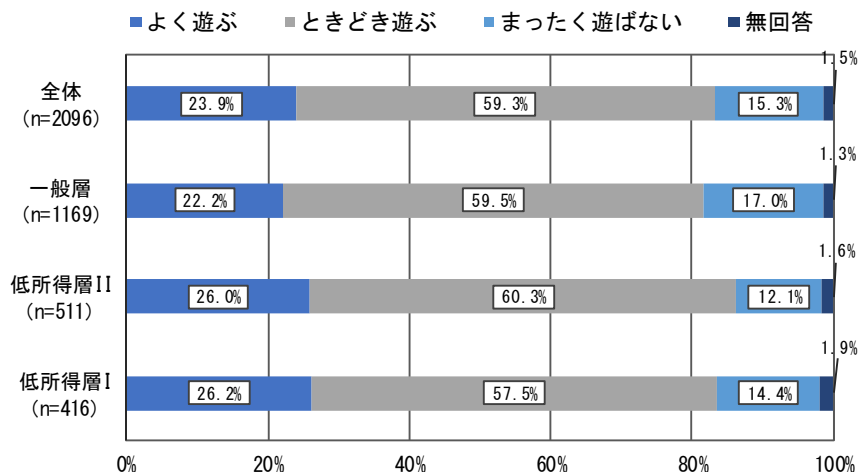
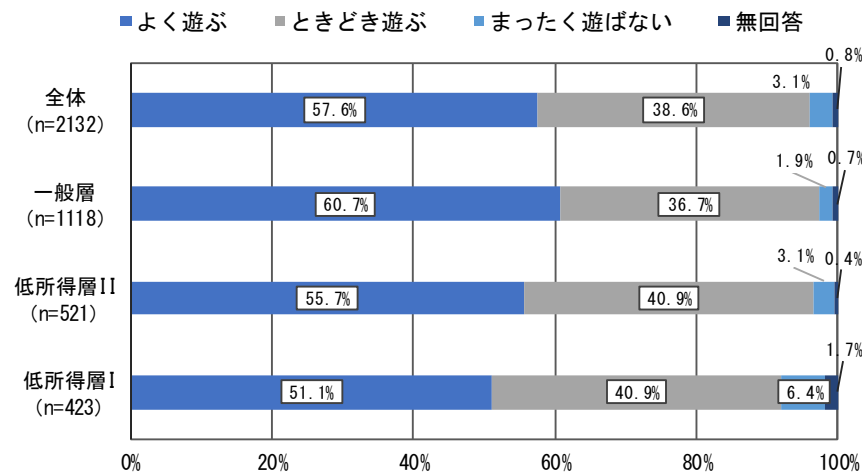


図5-1-8 【5歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。  
— 休日／父親 —



1 父親に子どもと遊ぶか尋ねたところ、平日は経済状況による差異がないものの、休日に「よく遊ぶ」と回答した割合は一般層の60.7%に比べ、低所得層Iは51.1%と低く、「まったく遊ばない」も低所得層Iでは約6%と他の層の2～3%程度に対して高くなっている。

# 5 保護者とのかかわり・子育てサークル等の利用

## 子育てサークル等の利用

図5-2-1 【1歳児】おうちの近所にお子さんと一緒に通える子育てサークルや子育てひろば（子育て支援センター）などの場はありますか。

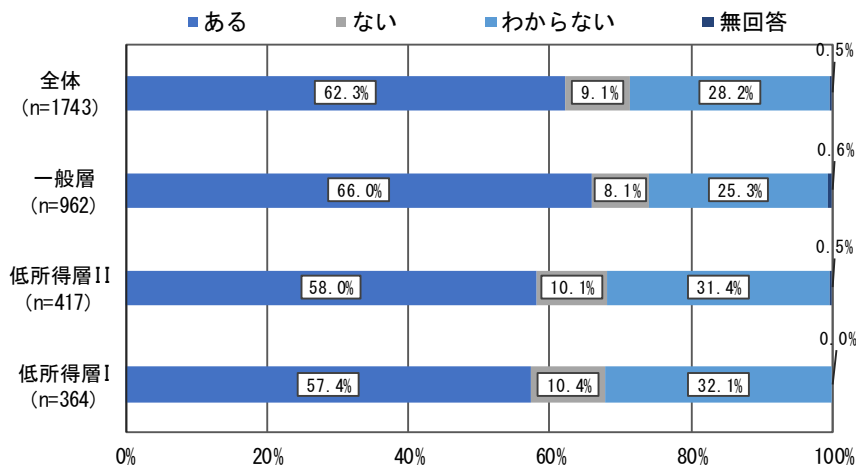
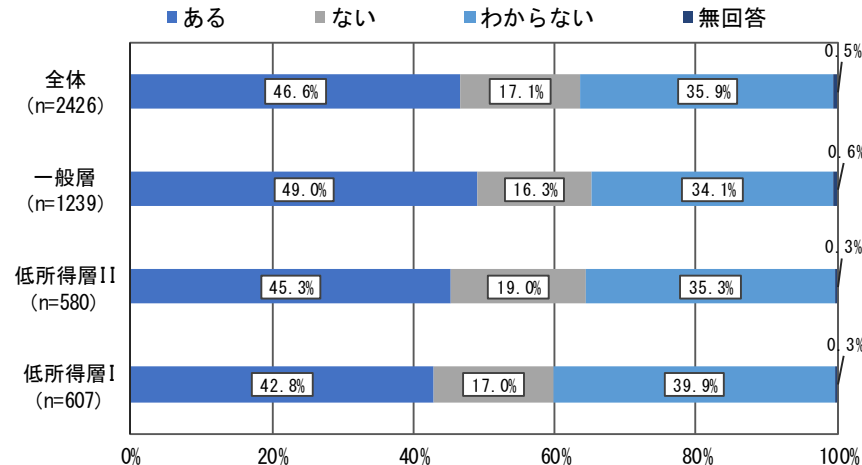


図5-2-2 【5歳児】おうちの近所にお子さんと一緒に通える子育てサークルや子育てひろば（子育て支援センター）などの場はありますか。



- 1 自宅近くに子育てサークルや子育てひろばなどがあるか尋ねたところ、「わからない」と答えた保護者が、1歳児では、一般層の25.3%に対して、低所得Ⅱが31.4%、低所得Ⅰが32.1%となっており、5歳児でも同様に、一般層の34.1%に対して、低所得層Ⅱが35.3%、低所得Ⅰが39.9%と高くなっており、低所得層ほど、子育てサークルや子育てひろばがあるか「わからない」と答える割合が高くなっている。

## 6 地域・社会とのつながり



# 6 地域・社会とのつながり

## 地域行事への参加

図6-1-1 【1歳児】地域の行事（祭りや清掃活動など）に参加していますか。

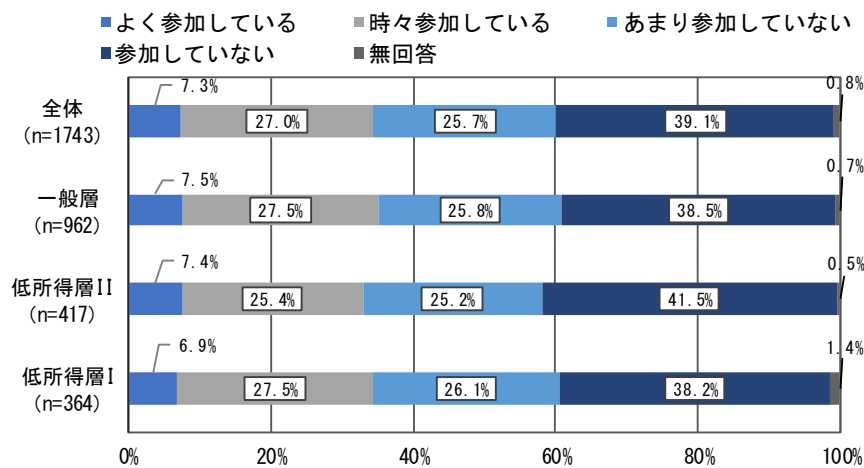
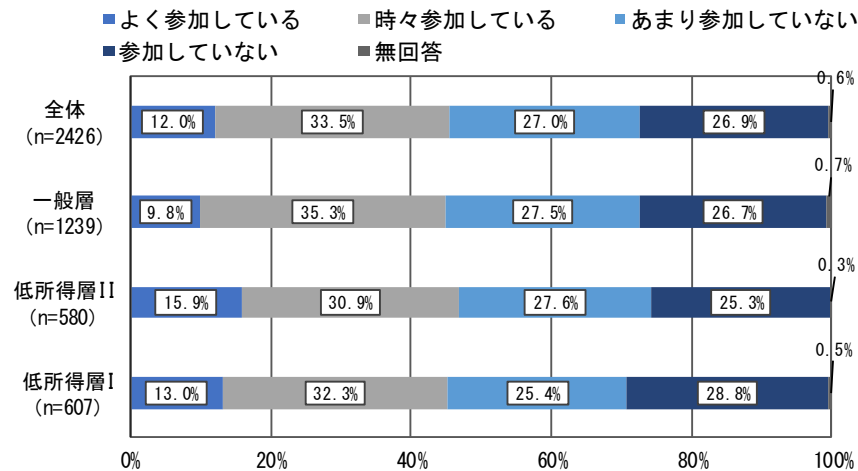


図6-1-2 【5歳児】地域の行事（祭りや清掃活動など）に参加していますか。



- 1 地域行事に参加しているか尋ねたところ、1歳児では経済状況による差異はないものの、5歳児では、低所得層IIの参加率（「よく参加している」「時々参加している」の合計）が46.8%と高いほか、全体の参加率も45.5%となるなど全所得層で1歳児を10ポイントほど上回っている。  
5歳児の保護者は、保育所や幼稚園を通したつながり等の影響が考えられる。

# 6 地域・社会とのつながり

## 相談相手の有無・孤立感①

図6-2-1 【1歳児】子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか。

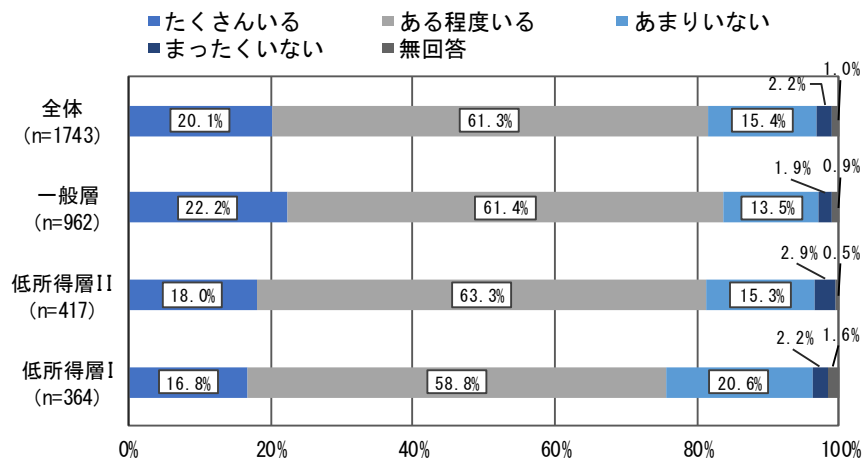
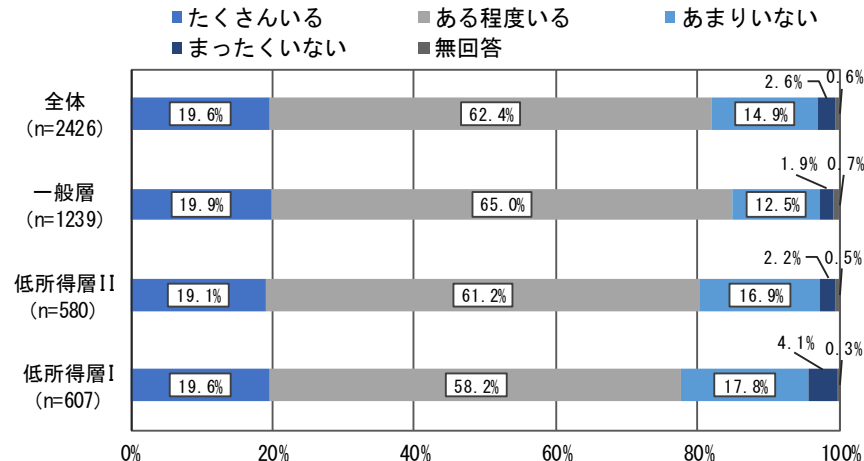


図6-2-2 【5歳児】子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか。

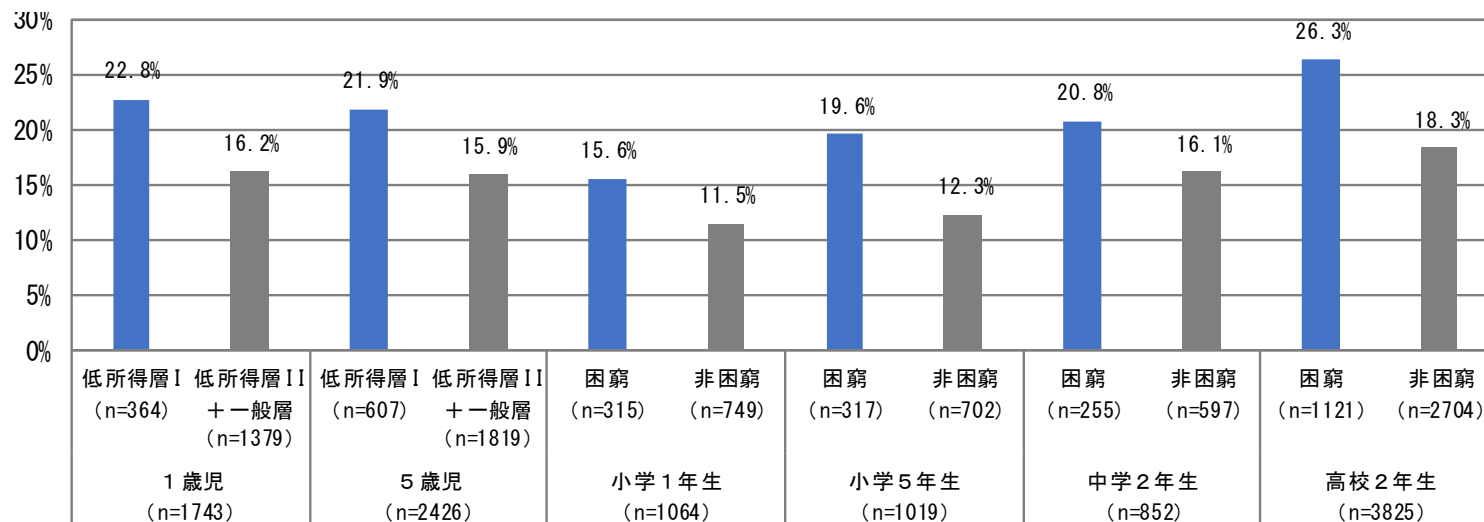


- 1 子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人について尋ねたところ、1歳児では、「たくさんいる」と回答した割合は所得が下がるほど減り、「あまりいない」「まったくいない」と答えた割合は、一般層が15.4%、低所得層IIが18.2%、低所得層Iが22.8%と増えている。5歳児では、「たくさんいる」の割合は所得差はないが、「ある程度いる」は所得が下がるほど徐々に減っており、「あまりいない」「まったくいない」は所得が下がるほど増えている。

## 6 地域・社会とのつながり

### 相談相手の有無・孤立感②

図6-2-3 子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか。  
—「あまりいない」「まったくいない」の割合—



※小中学生、高校生調査では、「子育てや教育についての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか」となっており、未就学児調査の質問内容と若干異なる。

- 1 子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人について、小学校入学時には、PTAなどの人間関係が増えるためか、一旦改善するものの、その後、所得による差が開いている。学校を通じた親同士の関係は、子どもが大きくなると低下するが、低所得層では付き合い（親の参加）が減り、その差が現れていると考えられる。

## 6 地域・社会とのつながり

### 相談相手の有無・孤立感③

図6-2-4 【1歳児】子育ての中で、自分一人で育てているという孤独感を感じることはありますか。

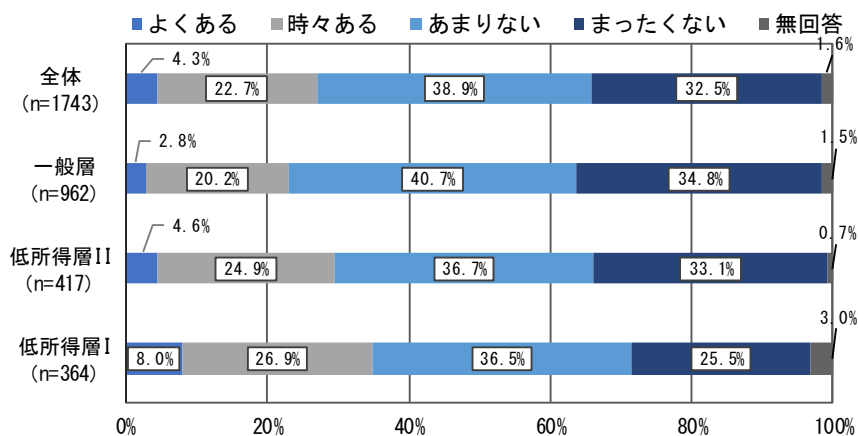
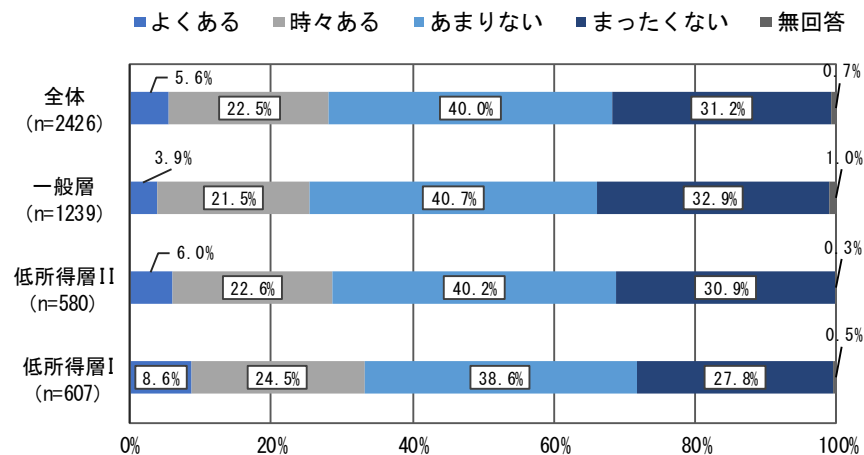


図6-2-5 【5歳児】子育ての中で、自分一人で育てているという孤独感を感じる事はありますか。



- 1 子育ての中で孤独感を感じるか尋ねたところ、1歳児では、「よくある」「時々ある」が一般層の23.0%に対して、低所得層Iは34.9%と増えており、5歳児も同様に、一般層の25.4%に対して、低所得層Iは33.1%と増えている。

# 7 健康

## 子どもを受診させられなかった経験①

図7-4-1 【1歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。

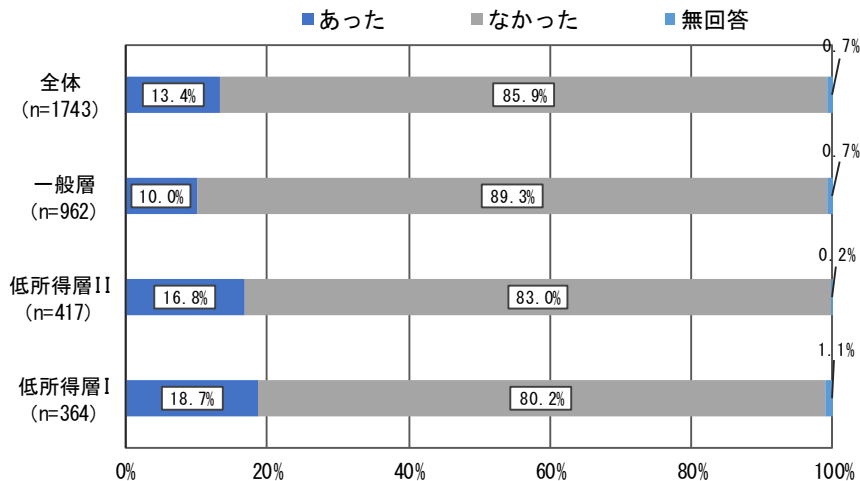
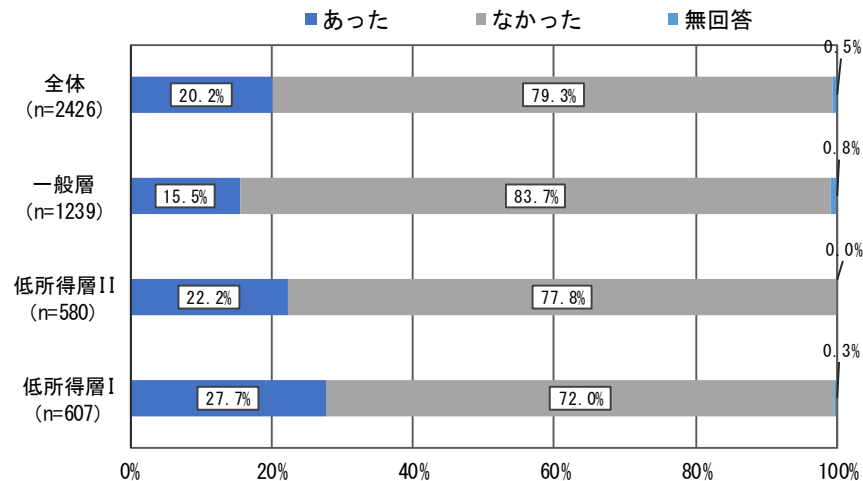


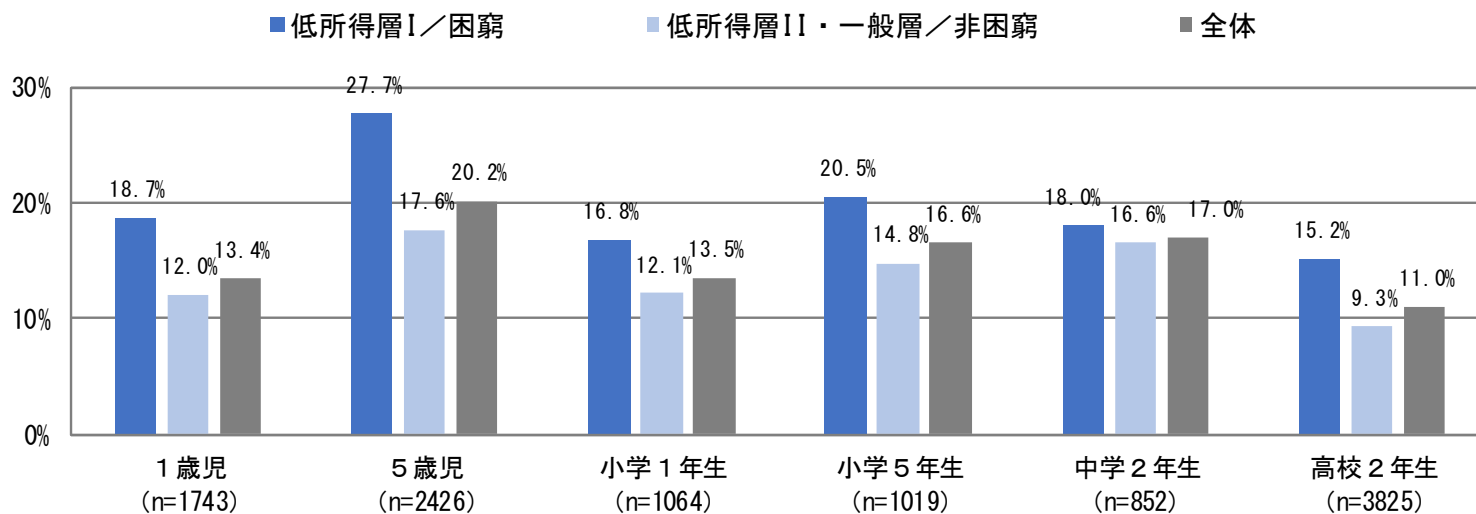
図7-4-2 【5歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。



- 1 病院などの受診抑制の経験について尋ねたところ、「あった」と回答した割合には経済状況による差がみられ、1歳児では、一般層が10.0%、低所得層IIが16.8%、低所得層Iが18.7%と高くなっている。5歳児では、一般層が15.5%、低所得層IIが22.2%、低所得層Iが27.7%と高くなっており、1歳児に比べても一般層と低所得層Iの差が広がっている。

## 子どもを受診させられなかった経験②

図7-4-5 過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことが「あった」の割合（※）

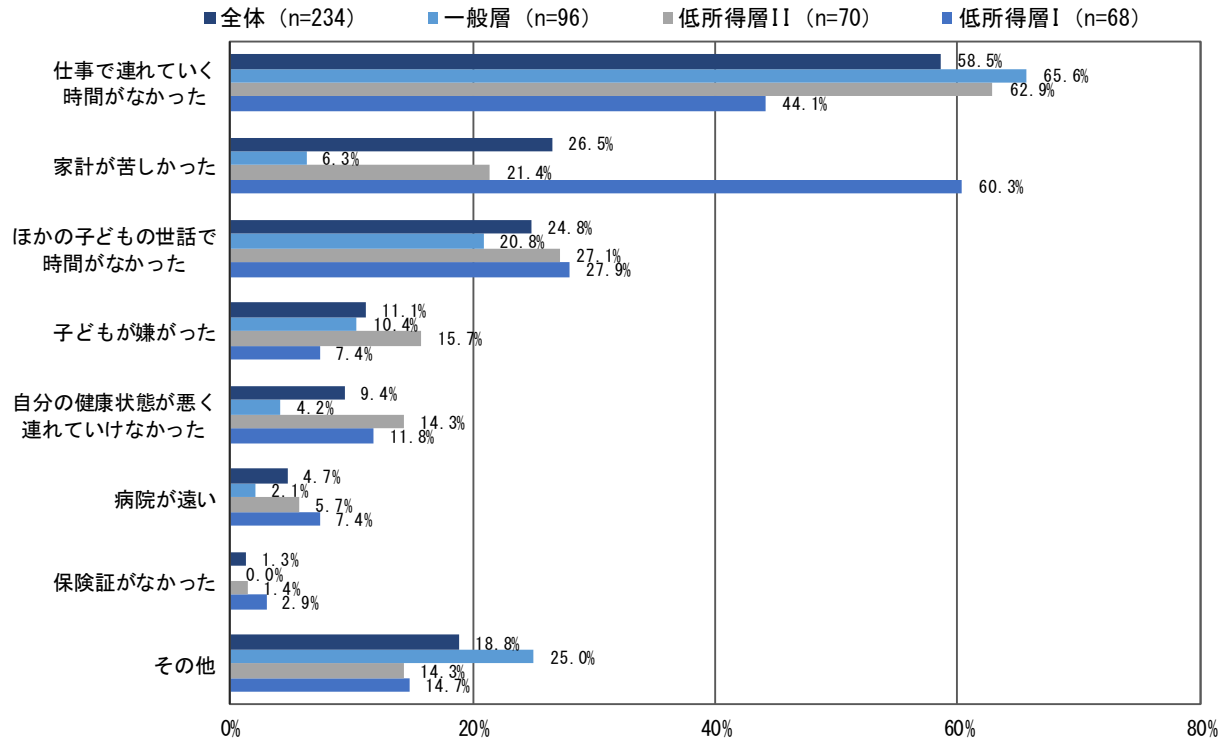


※ 小中、高校生調査では、「過去一年間に、医療機関でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか」と尋ねており、未就学児調査と設問内容が異なる。

- 過去調査とは調査対象や質問項目等が異なるため単純に比較はできないものの、子どもを受診させられなかった経験が「あった」と答えた割合は、「低所得層I／困窮」においては5歳児が最も高い27.7%で、1歳児も小学5年生の20.5%に次いで高い18.7%となっている。

## 子どもを受診させられなかった理由①

図 7-5-1 【1歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させなかった理由（複数回答）

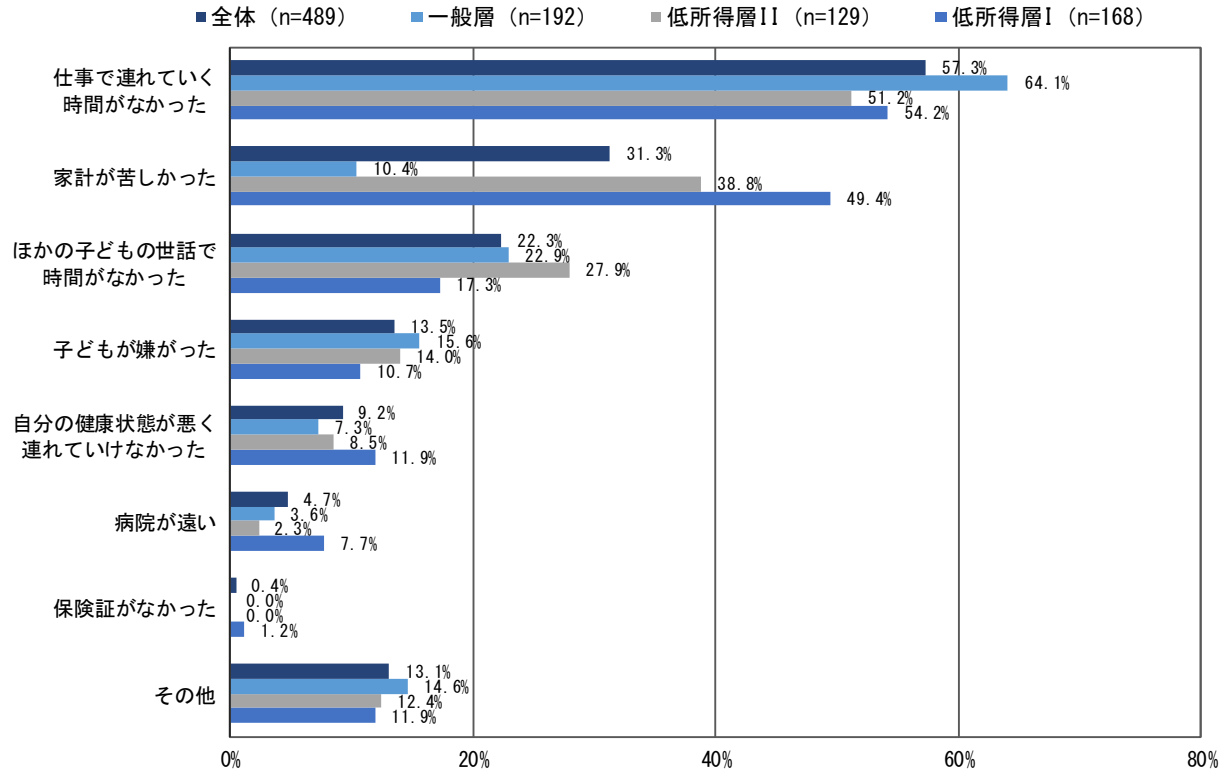


- 子どもを受診させられなかった理由を尋ねたところ、「仕事で連れていく時間がなかった」と答えた割合が全体で約6割に及んでおり、「家計が苦しかった」は、全体で約3割、低所得層Iでは約6割となっている。なお、数は少ないが、「保険証がなかった」とする方が存在することにも留意を払う必要がある。



## 子どもを受診させられなかった理由②

図 7-5-2 【5歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させなかった理由（複数回答）



- 子どもを受診させられなかった理由を尋ねたところ、1歳児と同様、「仕事で連れていく時間がなかった」と答えた割合が全体で約6割に及んでおり、「家計が苦しかった」は、全体で約3割、低所得層Iでは約5割となっている。なお、数は少ないが、「保険証がなかった」とする方が存在することにも留意を払う必要がある。

## 保護者が受診できなかった経験

図 7-6-1 【1歳児】過去一年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありましたか。

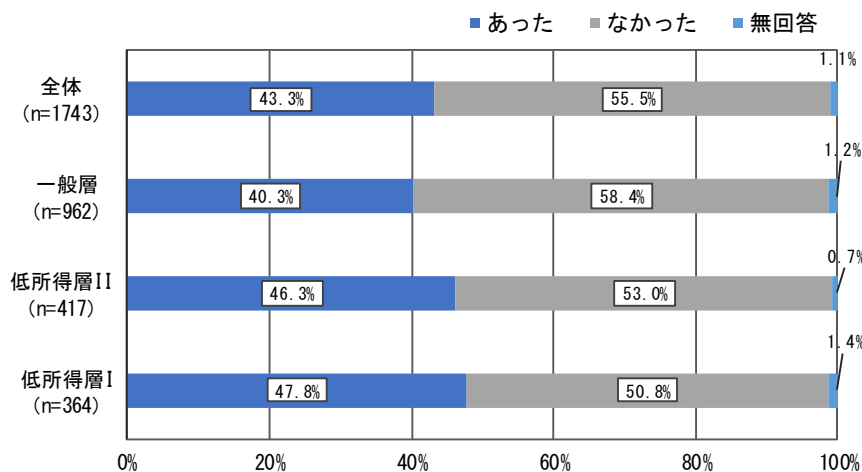
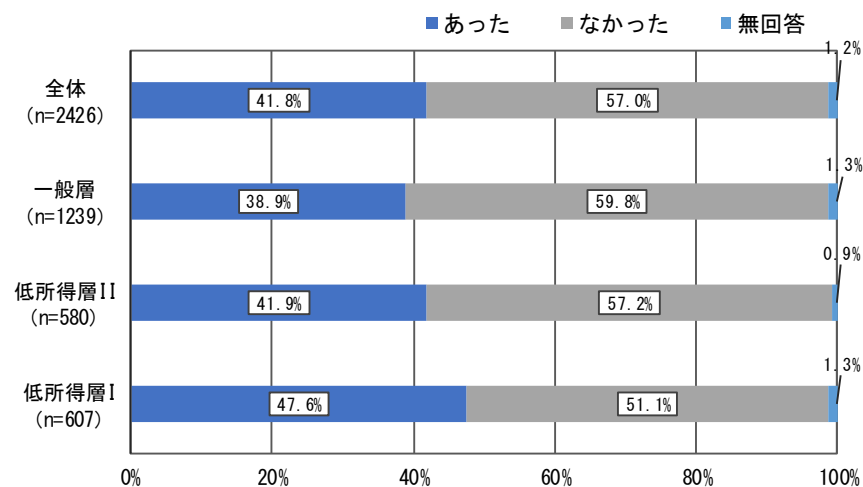


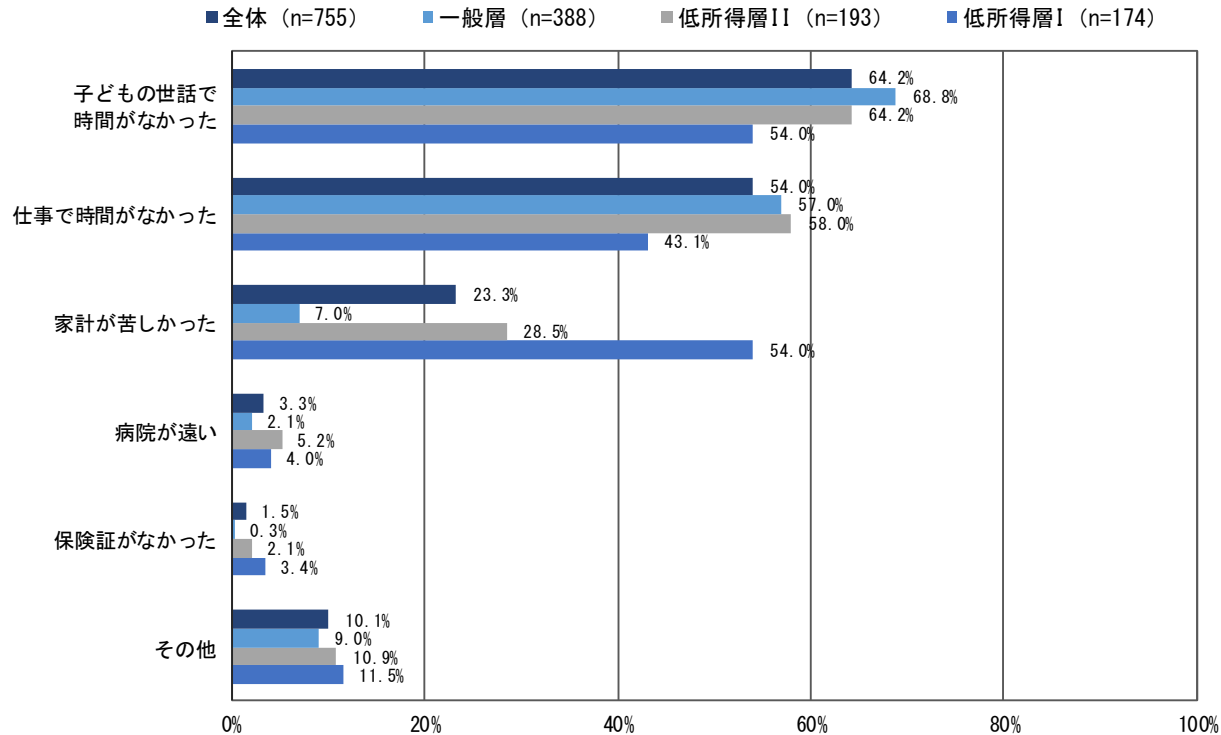
図 7-6-2 【5歳児】過去一年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありましたか。



- 1 保護者自身が受診できなかった経験を尋ねたところ、1歳児で43.3%、5歳児で41.8%と多くの保護者が受診抑制の経験があったと回答しており、子どもの場合と比べても高い割合であり深刻な状況がうかがえる。

## 保護者が受診できなかった理由①

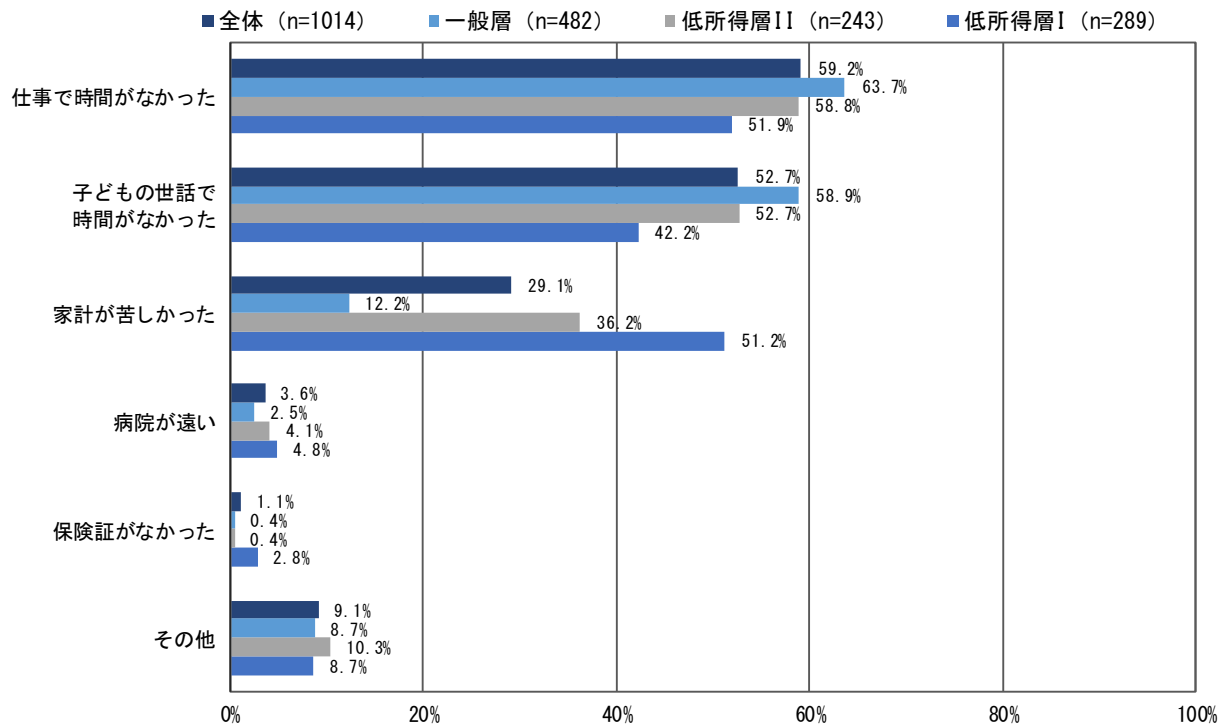
図 7-6-3 【1歳児】過去一年間に、あなたが病院や歯医者で受診できなかった理由  
(複数回答)



- 1 保護者に受診抑制の理由を尋ねたところ、全体では「子どもの世話で時間がなかった」「仕事で時間がなかった」の割合が高くなっているが、経済状況で差があり、一般層に比べ低所得層 I では低くなっている。「家計が苦しかった」については、一般層に比べ低所得層 I の割合がかなり高く、50%を超えている。なお、数は少ないが、「保険証がなかった」とする方が子どもの場合以上に存在することもわかった。

## 保護者が受診できなかった理由②

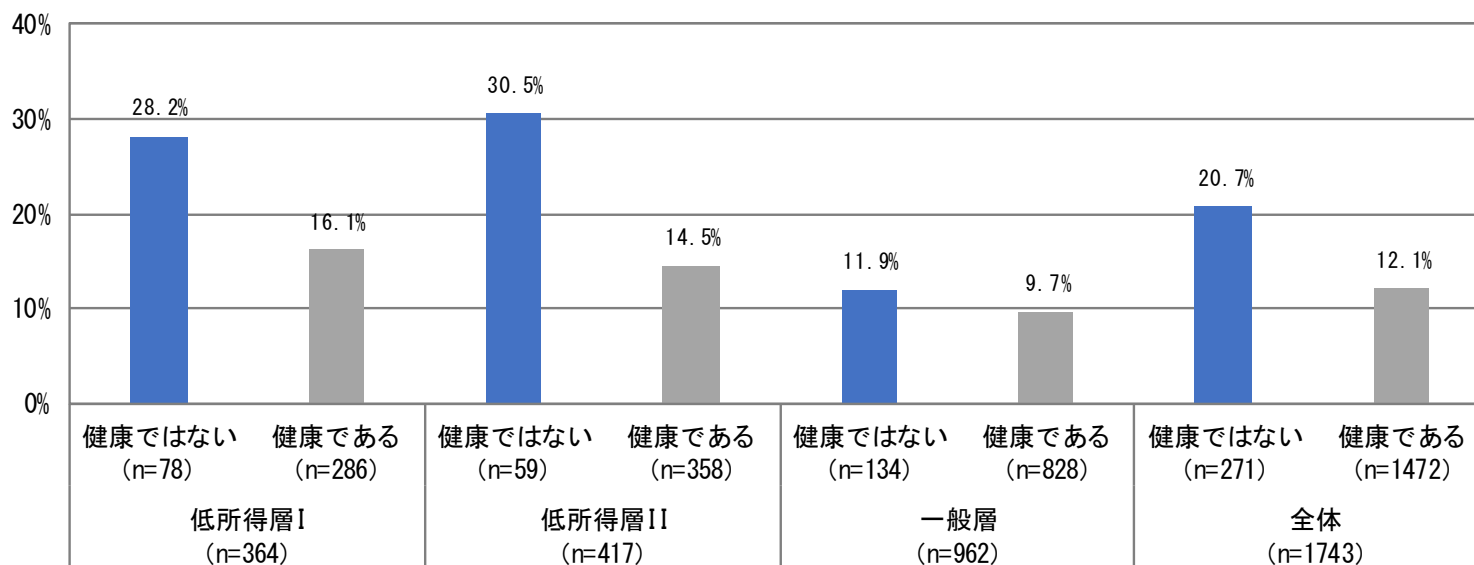
図7-6-4 【5歳児】過去一年間に、あなたが病院や歯医者で受診できなかった理由  
(複数回答)



- 1 保護者に受診抑制の理由を尋ねたところ、全体では「子どもの世話で時間がなかった」「仕事で時間がなかった」の割合が高くなっているが、経済状況で差があり、一般層に比べ低所得層Iでは低くなっている。「家計が苦しかった」については、一般層に比べ低所得層Iの割合かなり高く、50%を超えている。なお、数は少ないが、「保険証がなかった」とする方が子どもの場合以上に存在することもわかった。

## 保護者の健康状態の影響①

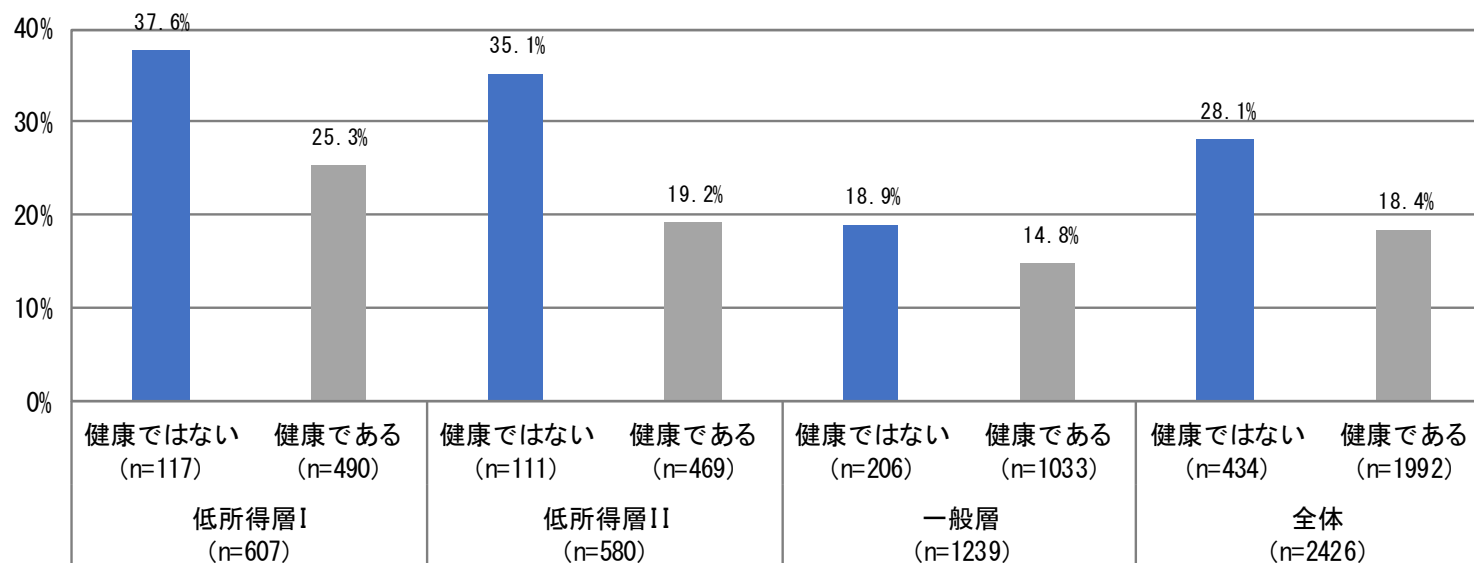
図 7-8-1 【1歳児】 子どもを受診させられなかった経験（保護者の健康状況×経済状況）



- 子どもを受診させられなかった保護者の健康状況の影響を見てみると、一般層では健康でないことの影響はあまり大きくはないが、低所得層Ⅱや低所得層Ⅰでは影響が大きくなっている。低所得Ⅱでは16ポイント、低所得Ⅰでは約12ポイントの差が生じており、低所得状況にあると、保護者が健康でないことが、子どもの受診状況にまで影響を及ぼすことが考えられる。

## 保護者の健康状態の影響②

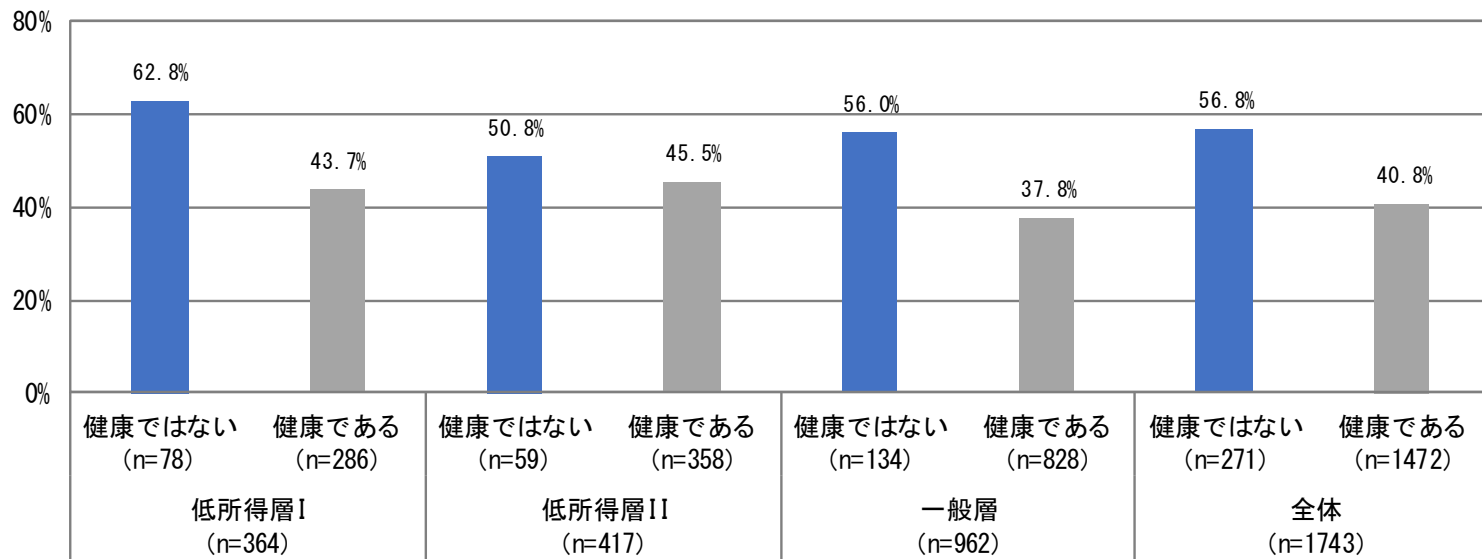
図 7-8-2 【5歳児】 子どもを受診させられなかった経験（保護者の健康状況×経済状況）



- 子どもを受診させられなかった保護者の健康状態の影響を見てみると、一般層では健康でないことの影響はあまり大きくはないが、低所得層Ⅱや低所得層Ⅰでは影響が大きくなっている。低所得Ⅱでは約16ポイント、低所得Ⅰでは約12ポイントの差が生じており、低所得状況にあると、保護者が健康でないことが、子どもの受診状況にまで影響を及ぼすことが考えられる。

## 保護者の健康状態の影響③

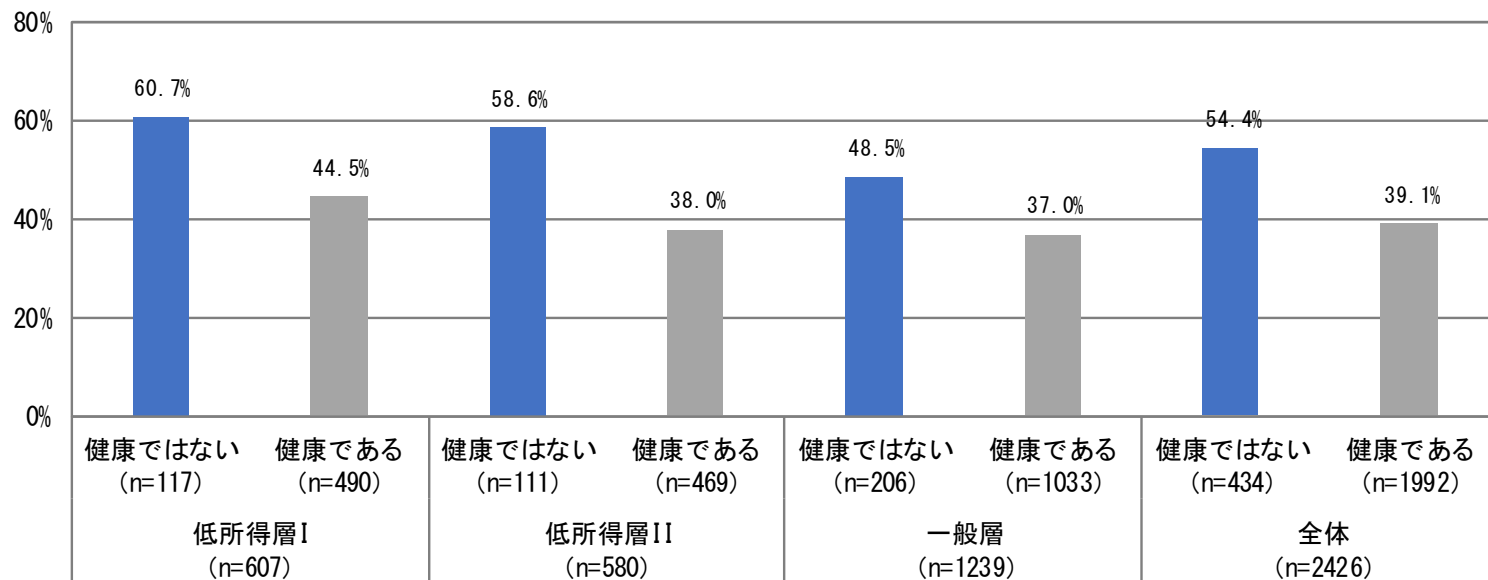
図 7-8-3 【1歳児】 保護者が受診できなかった経験（健康状況×経済状況）



- 1 健康でないことは保護者自身の受診抑制のリスクを高めており、健康の有無により全体では16ポイントの差があった。  
 また、子どもを受診させられなかった場合と比べ各層とも差は大きくはないが、保護者の受診抑制全体に経済状況が影響しているため、低所得層 I で「健康ではない」場合、6割以上が経験があると答えており、かなり高い数値となっている。

## 保護者の健康状態の影響④

図 7-8-4 【5歳児】 保護者が受診できなかった経験（健康状況×経済状況）



- 健康でないことは保護者自身の受診抑制のリスクを高めており、健康の有無により全体では約15ポイントの差があった。  
また、子どもを受診させられなかった場合と比べ各層とも差は大きくはないが、保護者の受診抑制全体に経済状況が影響しているため、低所得層 I で「健康ではない」場合、6割以上が経験があると答えており、かなり高い数値となっている。



# 7 健康

## 保護者の抑うつ傾向①

図7-2-1 【1歳児】 保護者の抑うつ傾向

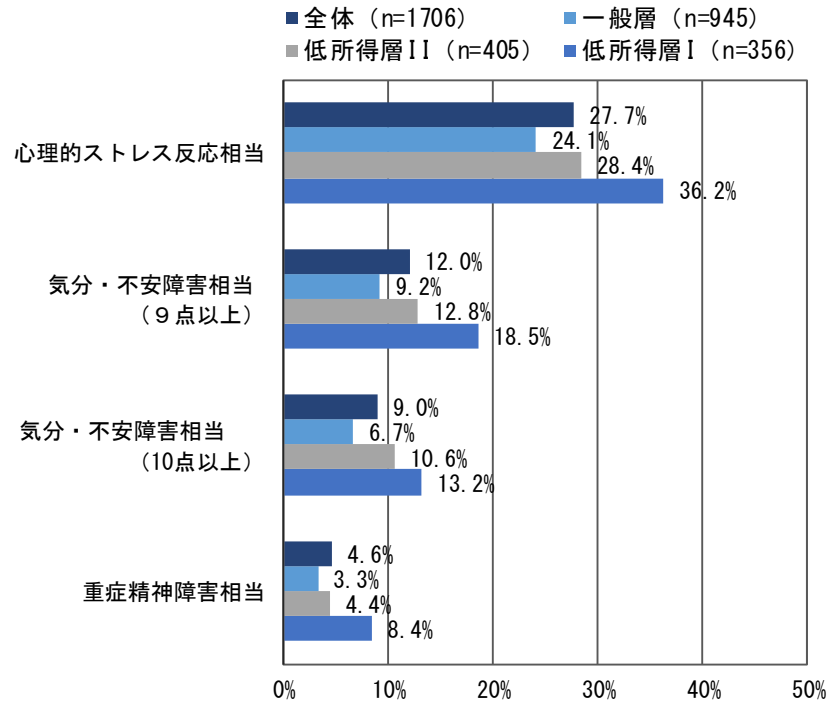
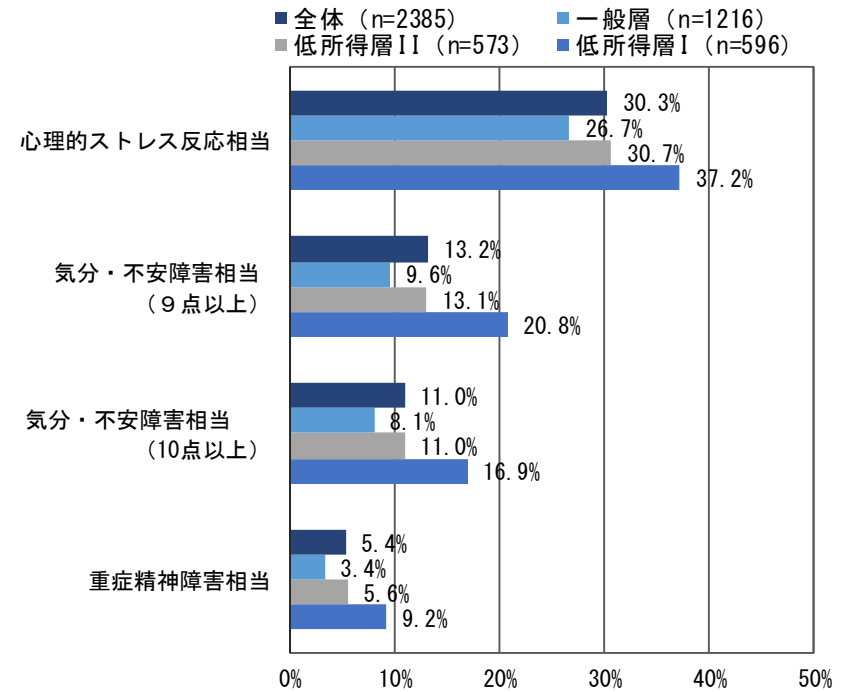


図7-2-2 【5歳児】 保護者の抑うつ傾向



1 経済状況により抑うつ傾向には違いが見られ、どの基準点(※)でも、一般層と比較して低所得層Iでは該当する割合が高くなっている。低所得層Iでは「心理的ストレス反応相当」(5点以上)が36~37%、「気分・不安障害相当」(9点以上)が19~21%、「気分・不安障害相当」(10点以上)が13~17%、「重症精神障害相当」(13点以上)が8~9%となっている。

※ K6指標：国民生活基礎調査でも用いられているもので、過去30日間の心の状況を6つの質問で尋ね(それぞれ5段階での選択肢)、点数の合計点を算出する。いくつかの基準点が提案されているが、川上・高野(2015)では、5点以上を「心理的ストレス反応相当」、9点および10点以上を「気分・不安障害相当」、13点以上を「重症精神障害相当」を一般集団に対する基準点として提示している。

## 保護者の抑うつ傾向②

図7-2-3 【1歳児】保護者の抑うつ傾向（世帯類型別）

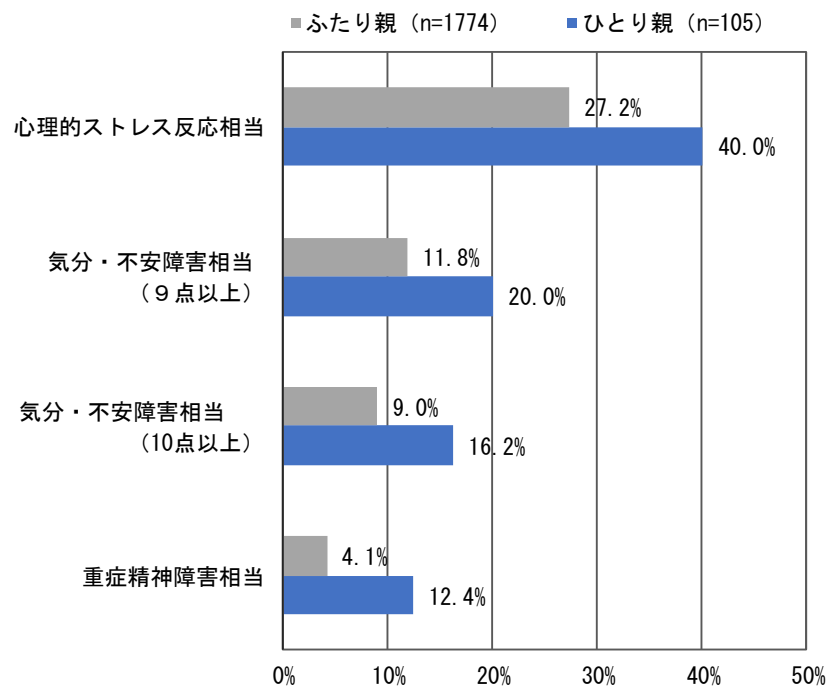
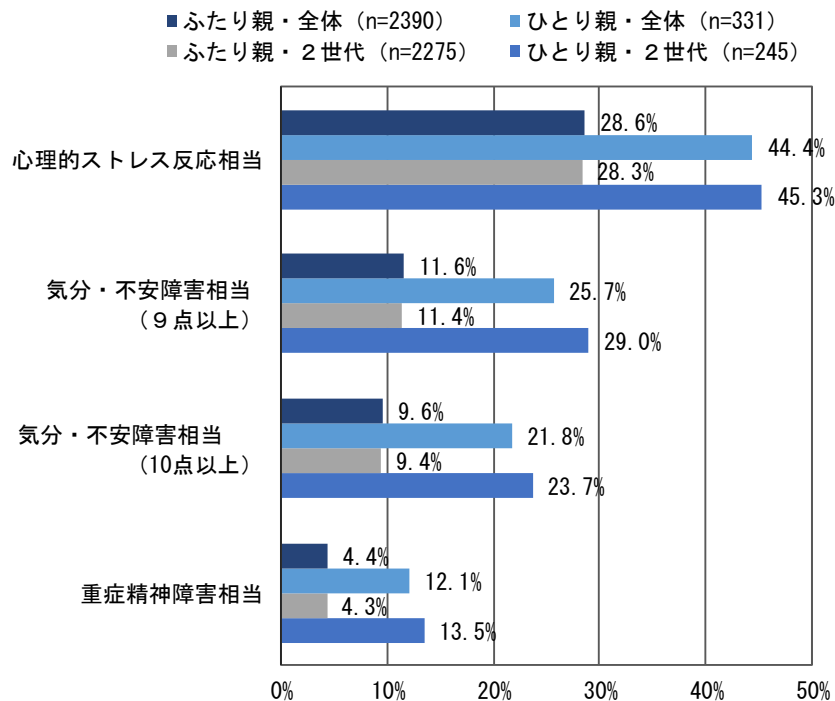


図7-2-4 【5歳児】保護者の抑うつ傾向（世帯類型別）



1 世帯状況によっても抑うつ傾向には違いが見られ、どの基準点でも、ふたり親と比較してひとり親では、該当する割合が高くなっている。ひとり親世帯全体では、「心理的ストレス反応相当」(5点以上)が40~44%、「気分・不安障害相当」(9点以上)が20~25%、「気分・不安障害相当」(10点以上)が16~22%、「重症精神障害相当」(13点以上)が12%となっている。

# 8 人生経験

# 8 人生経験

## お母さん自身の15歳の頃の暮らし向き

### お母さん

図8-2-1 【1歳児】「お母さんご自身が15歳の頃」のご家庭の暮らし向き

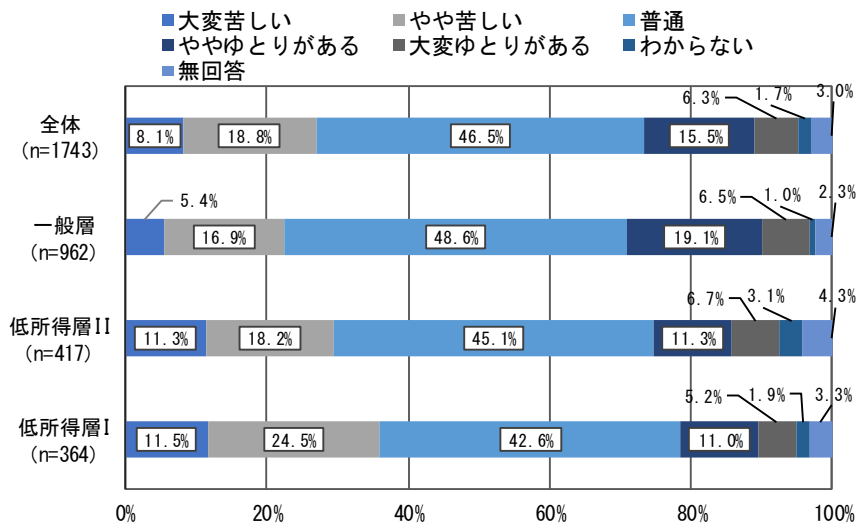
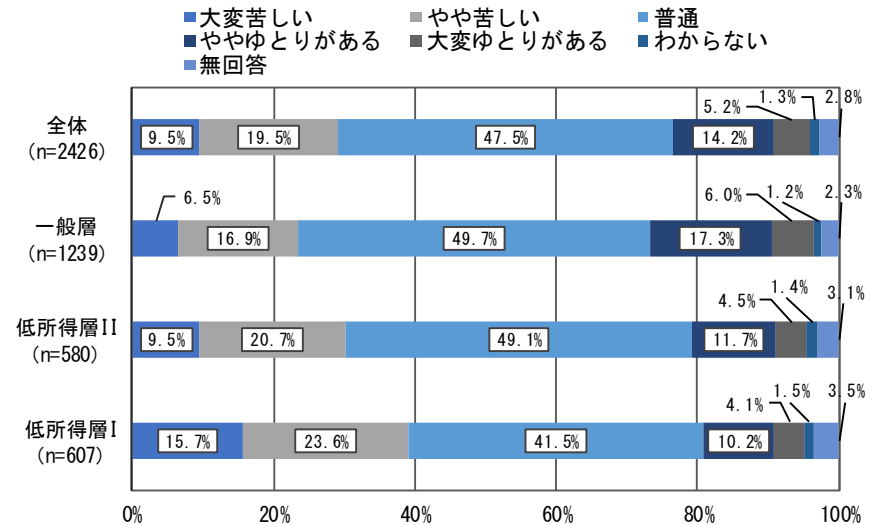


図8-2-2 【5歳児】「お母さんご自身が15歳の頃」のご家庭の暮らし向き



1 15歳の頃「大変苦しい」・「やや苦しい」と答えた母親は、1歳児、5歳児とも、現在の所得が低くなるほど、割合が増えており、「普通」「ややゆとりがある」は減っている。

# 8 人生経験

## お父さん自身の15歳の頃の暮らし向き

### お父さん

図8-2-3 【1歳児】「お父さんご自身が15歳の頃」のご家庭の暮らし向き

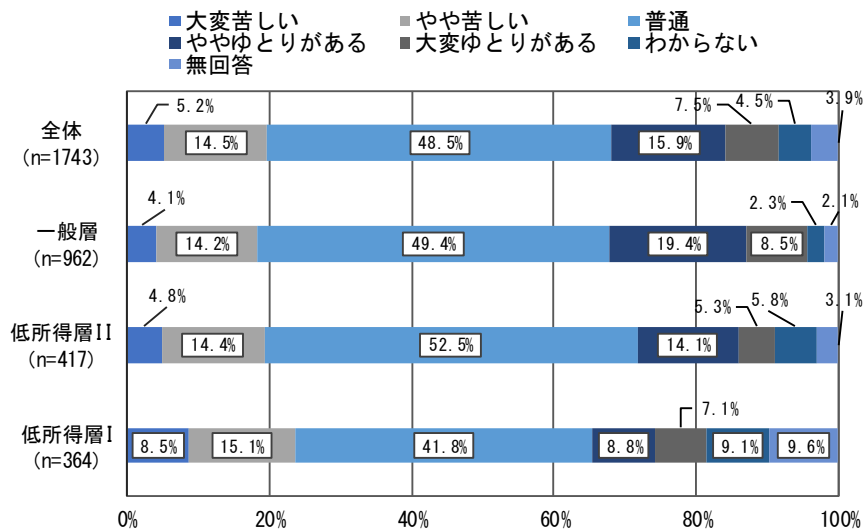
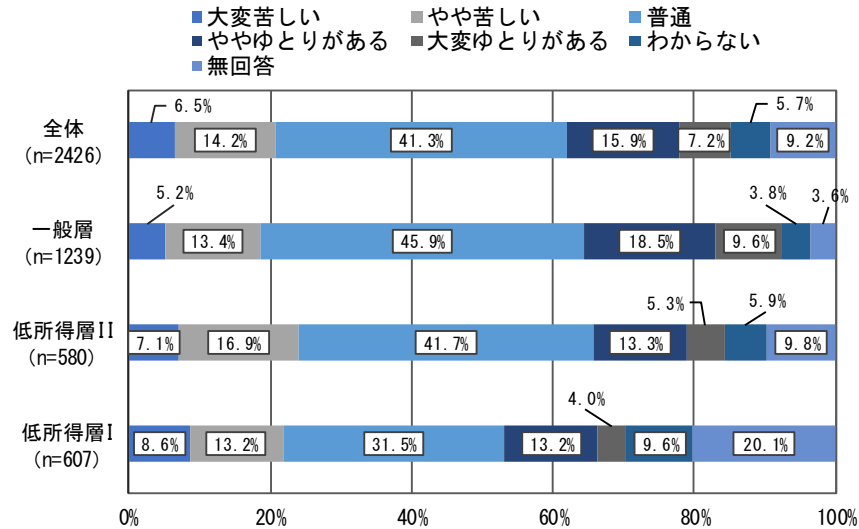


図8-2-4 【5歳児】「お父さんご自身が15歳の頃」のご家庭の暮らし向き



- 15歳の頃「大変苦しい」・「やや苦しい」と答えた父親は、1歳児では、母親と同様、現在の所得が低くなるほど割合が増えており、5歳児では、特に低所得層Iで無回答が多いためか、若干異なる傾向だが、「大変苦しい」という回答は所得が低くなるほど増えている。

## 9 現在のくらし

# 9 現在の暮らし

## 現在の暮らし

図9-1-1 【1歳児】ご家庭の現在の暮らしをどのように感じていますか。

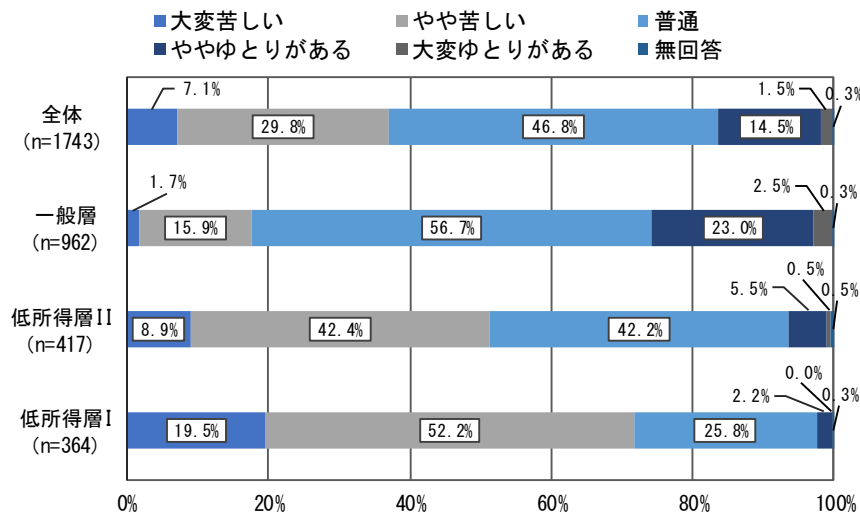
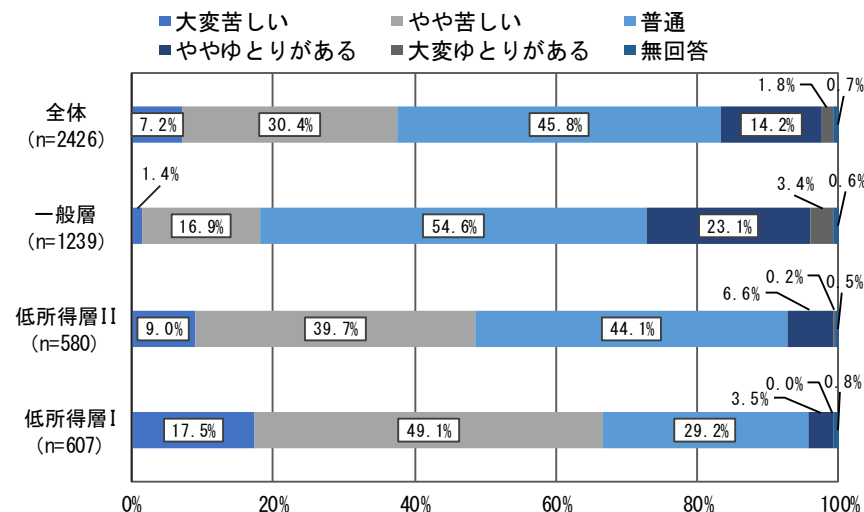


図9-1-2 【5歳児】ご家庭の現在の暮らしをどのように感じていますか。

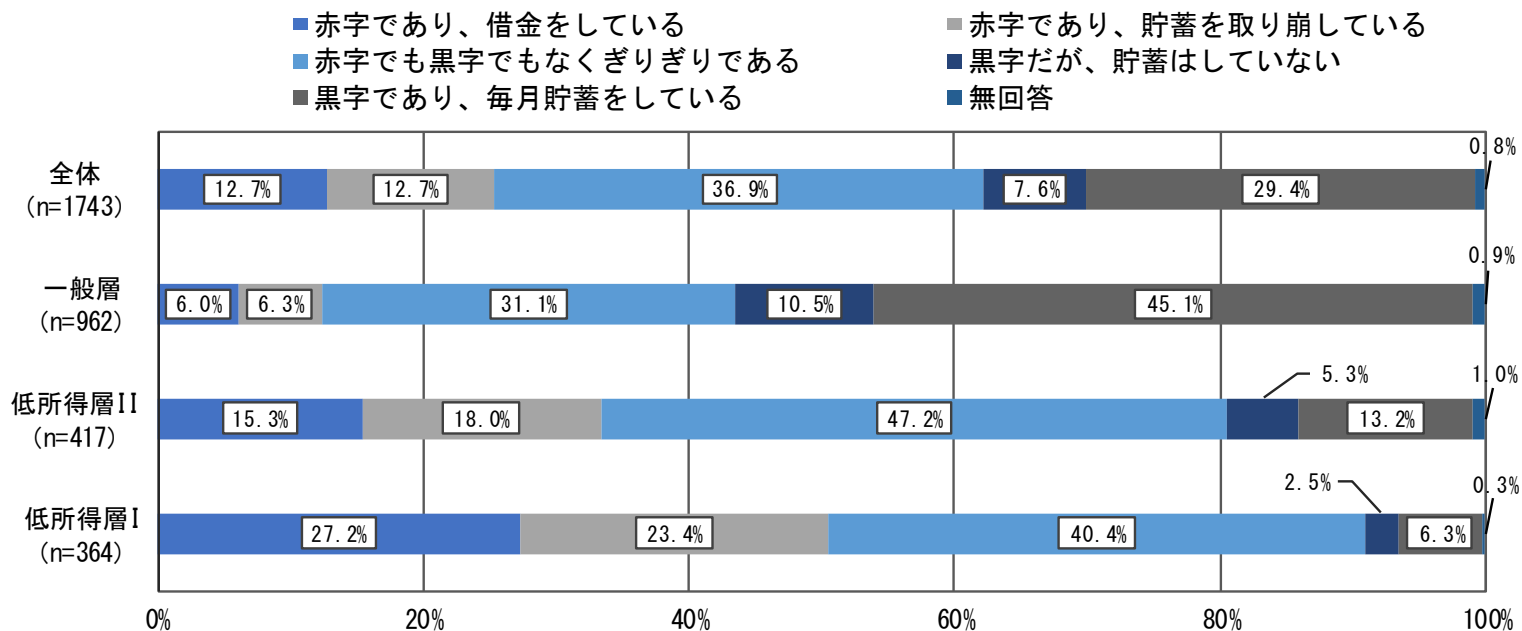


1 現在の暮らしについて尋ねたところ、「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせると、低所得層Iでは、1歳児71.7%、5歳児66.6%、低所得層IIでも、1歳児51.3%、5歳児48.7%となっており、低所得層では、いずれも1歳児の方がやや高い結果となっており、より厳しい生活状況であることがうかがえる。

# 9 現在の暮らし

## 家計について①

図9-1-3 【1歳児】ご家庭の家計について教えてください。



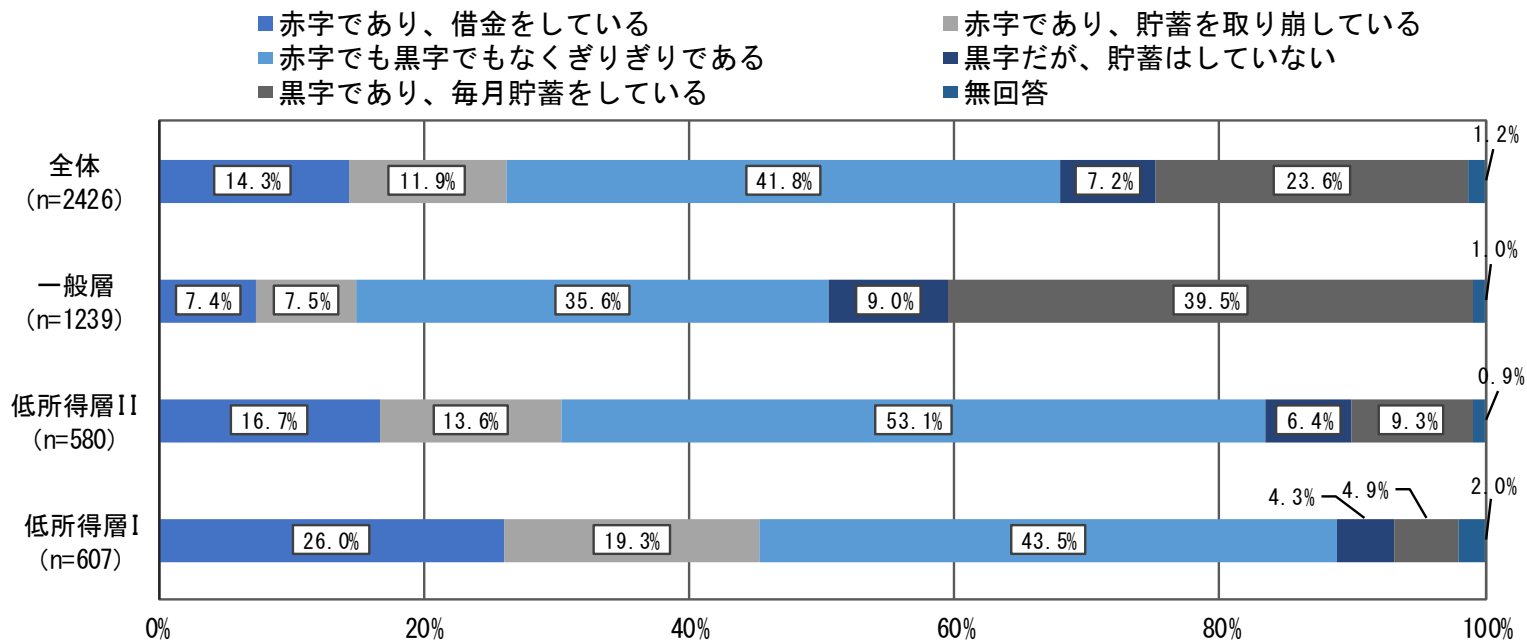
- 1 現在の家計について尋ねたところ、低所得層 I に注目してみると、「赤字であり、借金をしている」が27.2%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」が23.4%となっており、約半数が赤字で、4分の1の世帯は借金でやりくりしているという厳しい現実が見える。



# 9 現在の暮らし

## 家計について②

図9-1-4 【5歳児】ご家庭の家計について教えてください。

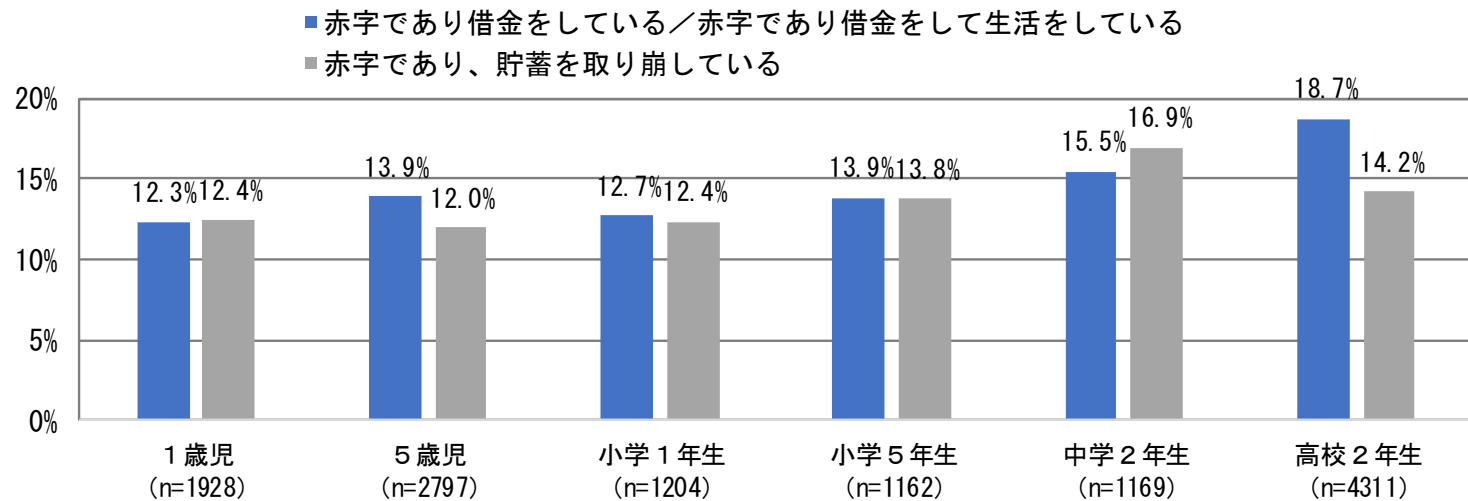


- 1 現在の家計について尋ねたところ、低所得層Iに注目してみると、「赤字であり、借金をしている」が26.0%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」が19.3%となっており、約半数が赤字で、4分の1の世帯は借金でやりくりしているという厳しい現実が見える。なお、現在の暮らし同様、1歳児の方が赤字である割合が高くなっている。

## 9 現在の暮らし

### 家計について③

図 9-1-5 家庭の家計の状況



注) 小中／高校生調査と未就学児調査では設問の内容が少し異なる。

小中／高校生調査：「あなたのご家庭の通常の家計の状況について、もっとも近いものに○をしてください」

—赤字であり、借金をして生活している／赤字であり、貯蓄を取り崩している／赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである／黒字であり、余裕がある／黒字であり、毎月貯蓄をしている

- 1 家計の状況について、過去調査とは設問が若干異なるため単純に比較できないものの、「赤字であり借金をしている(未就学児調査)／赤字であり借金をして生活している(小中学生調査、高校生調査)」と回答した割合をみると、1歳児は12.3%と最も低く、5歳児は13.9%と小学1年生の12.7%よりも高く、小学5年生と同じ割合となっている。

# 9 現在の暮らし

## 食料が買えなかった経験①

図9-2-1 【1歳児】食料が買えなかった経験

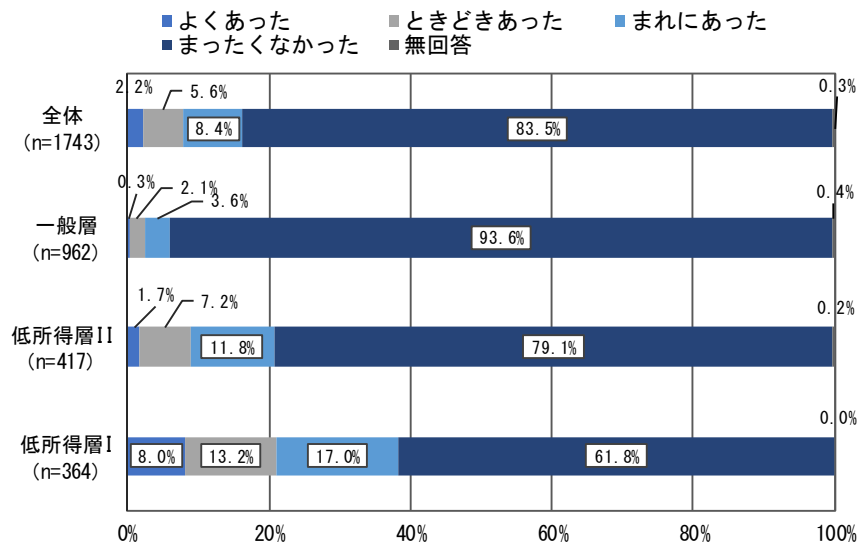
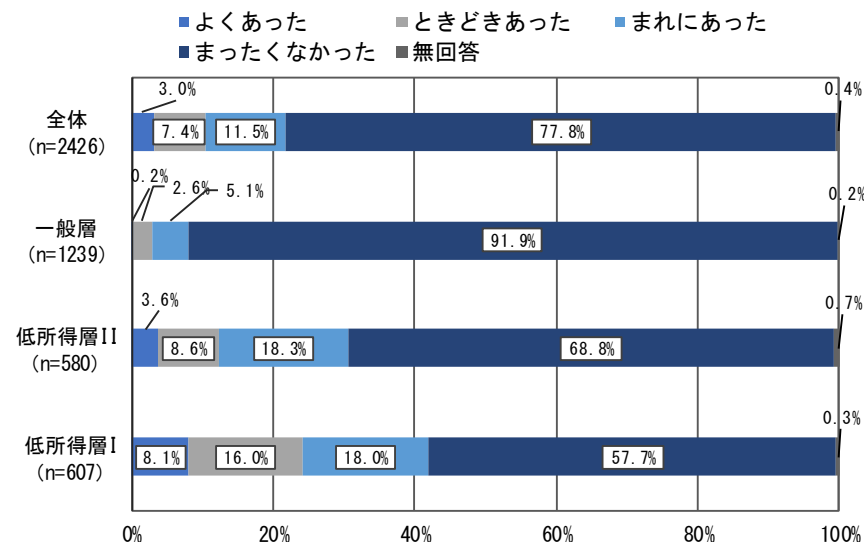


図9-2-2 【5歳児】食料が買えなかった経験

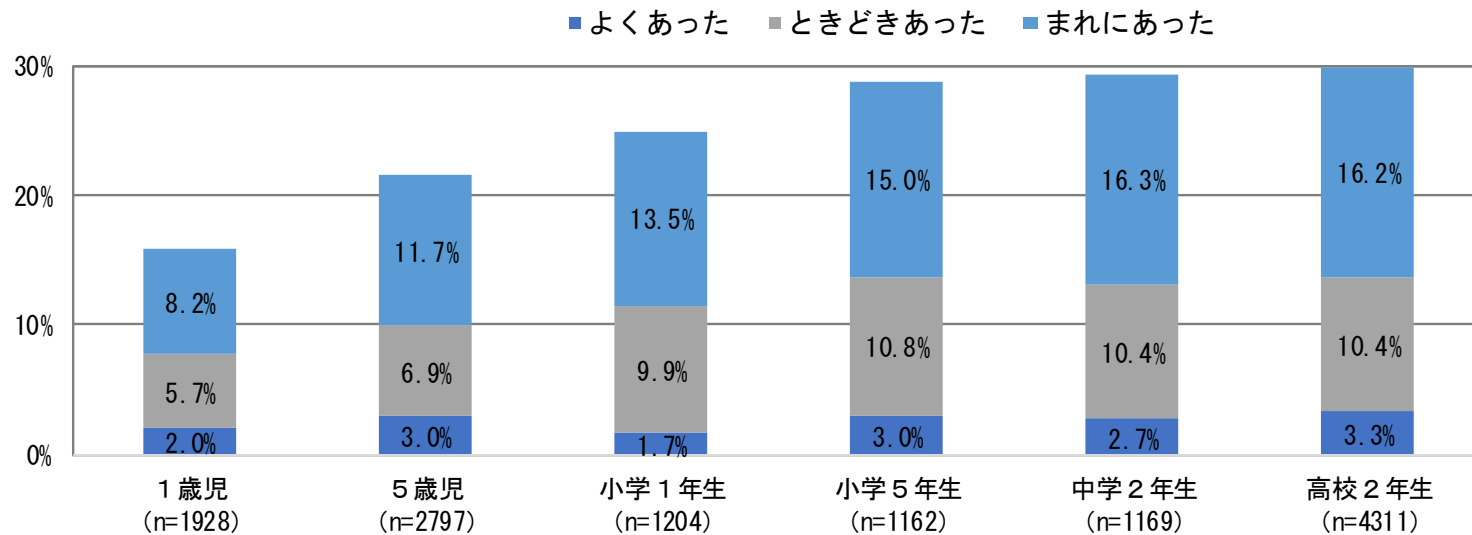


1 食料が買えなかった経験について尋ねたところ、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた回答割合は、1歳児の低所得層Iでは38.2%、5歳児の低所得層Iでは42.1%となっており、約4割が食料が買えなかった経験をしていることがわかる。

## 9 現在の暮らし

### 食料が買えなかった経験②

図9-2-3 食料が買えなかった経験



- 1 食料が買えなかった経験について、過去調査とは調査対象が異なるため単純に比較はできないものの、子どもの年齢が上がるほど、食料が買えなかった経験がある割合が高くなっている。また、「よくあった」に注目すると、各年齢・学年ともに2～3%前後となっており、高校2年生の3.3%が最も高く、次いで、今回調査の5歳児と小学5年生が同じ3.0%となっている。

# 10 自由記述 意見・要望等について 一部抜粋

### (1) 教育費・保育料等について

- ① 将来的な課題として、子どもに学習を積み重ねていくのにかかる費用が日本は高すぎる。県だけの課題ではないが、国や地方公共団体等の負担を増やし、一人一人が金銭面で進学できないことがないような世の中になってほしいと願っています（高校、大学、院等への進学に係る費用）（1歳児）
- ② 保育料や給食費などの無償化を実現してほしい。小学校などの雑費が、地味に高いのでこれも家庭の負担にならないでほしい。それから中学校など入学する時、制服代など高いのでこれも県から支給などした方がいいと思います。（5歳児）
- ③ 保育料をもっと安くしてほしいです。パートをしていますが、保育料でだいたい収入がなくなります。家計のために働く意味がないです。子どもを育てながらの職探しも大変です。なかなか採用されず、パートなどで精一杯です。保育料が下がればたすかります・・・。（5歳児）

### (2) 医療費について

- ① 3人目の子供が保育料無料がとてもありがたかったです。中学生まで医療費が無料になってくれたら助かります。医療費までは、1か月の家計の中の計算に入れないので、急な出費であせります。お金がないからカゼひくなと言ってしまう。本当は大丈夫？と言いたいのに。（5歳児）
- ② 児童扶養手当の受給を4カ月に1回から2カ月に1回への検討をしていると聞いています。できるだけ早めに進めてほしい。医療費なども窓口で支払うのではなく完全無料化にしてほしい。手持ちがないと受診へ行けない。（1歳児）
- ③ 子どもの医療費について、県外に住んでいた時は窓口支払いがなかったので、沖縄県でも同様の制度を実施してほしい。予防接種も高齢者だけ補助があって、幼児にはないもの（インフルなど）があるので、子供にも補助を出してほしい。（5歳児）

### (3) 待機児童について

- ① (本当にゆとりがない人はこのようなアンケートにも答えられる状態ではないのではないかと感じました。) 保育園に4月から入れるか不安でいっぱいです。保育園ふやしてほしいです(職場復帰の為)。(1歳児)
- ② 保育園に入れない(市内にないので市外にいているが)。認定こども園が高すぎる。仕事をしていないと公立幼稚園以外の選択ができなさすぎる。他県をみならって。(1歳児)
- ③ 共働きでも安心して子育てができる様、保育・学童施設の受入体制を増やしてほしいです。保育園に関しては、保育士さんの給料が低すぎます。国・県からお金を下ろすことで給料を増やし、保育士さんを増やして、受け入れ先を増やしてもらいたいです。(5歳児)



### (4) 保育・教育について

- ① 仕事柄夜の勤務が多いので、夜間保育園が増えると助かります。  
(1歳児)
- ② 観光に関する仕事で、土、日も働きながらの子育てが大変。手当があるわけでも、保育所があいてもいないが、県では、こういう仕事ばかりで、働きにくいなと感じる。(1歳児)
- ③ 登園している保育園が、つねに保育士を募集している。職員が足りていないのに認可保育園で大丈夫なのかと少し不安になる。人手不足で指導できなくて、子供に目がいかないのではないかとと思う。(1歳児)

### (5) 学童の不足や質について

- ① 小学校1年生になったら、学童に入れる予定だが、現在定員がいっぱいで、待機となっている。保育園だけの問題と思っていたので、びっくりしている。共働きでも、安心して子供を預けられる場所の確保を優先してほしい。スムーズに行けない事が多くなると、ますます子供を産み育てるのに自信がなくなります。（5歳児）
- ② 学童期（小学校）になると、夫婦共働きの為、学童に通わなければならないが、近所の方からの経験話で、「入るのが厳しい」と聞いた。実際、地域の学校はマンモス校であるので厳しいそう。それぞれの地域に児童館を作って欲しい。（1歳児）
- ③ 学童不足だと感じます。学童側も、申し込み期間を分かりやすく周知する等してほしいです。私が申し込みをする頃（12月前半）には、「これから申し込みをしても待機となります」との返事でした。小学校での放課後教室も日数を増やしてほしいです。（5歳児）

### (6) 情報不足・相談場所について

- ① 保育園や特に学童についての情報が少ないので、もっと分かりやすく、且つ充実させて欲しい。(5歳児)
- ② もっと知らせていく必要がある。「知らない」人が多く知っていても手続き方法がわからない人も多い。ポスターや冊紙で市役所だけでなく産院やいろんな所で手にとって知ってもらう努力をすることが必要だと考える。(5歳児)
- ③ 各制度を知る機会が少なすぎる。うまく活用できるように子供が生まれた時から産婦人科や病院で一覧表にして教えてもらえれば子供がいつその制度の対象に当たるか知ることができ、相談できるので少しでも改善できればうれしく思う。(1歳児)

### (7) 働き方・給与等について

- ① 子の父親は帰りが遅く、平日子どもと遊ぶ時間が少ないです。子育て支援もありがたいですが、働き方改革もよろしくお願いします。（5歳児）
- ② お互い（夫婦）フルタイムで働かないと生活が厳しいが、子育て、家事をしながらフルタイムで働くのは体力的にも精神的にもキツイので、子育て世代の支援策を考えて欲しい。沖縄県の賃金をもっとあげてほしい。（5歳児）
- ③ 主人の仕事がサービス業なので土日の休みがほとんどなく子供との時間がなかなか取れない。又、深夜帰宅がほとんどで私が仕事をすることも難しく（主人の休みが土日にあるかわからない為子供のあずけ先がない）育児もワンオペで正直しんどくなる日もあります。身内も沖縄県内にいないので私に何かあった時の心配はつねにあります。母親がリフレッシュできる様な何かがあったら子育てももっと良くなると思います。支援センターも赤ちゃんばかりでものたりず幼稚園に入る前にはいかなくなりました。（5歳児）

### (8) 遊ぶ場所・子どもの居場所について

- ① ほぼ一人で子育てをしている状態で、保育園に土日預けられないため、毎週土日をどう過ごすか考えて毎週公園に行っています。子育て支援センターにもいきたいですが、土日休みのため、行けず、、、皆さんが休みの日どこで過ごしているのか知れる場があれば助かります。（1歳児）
- ② 身近に頼れる人がいないので、放課後、安心して過ごせる場所を小学校のとなりなどなるべく近くに、作ってほしい。毎日、どうにか生活できている状態で、決してゆとりがあるわけではありませんが、なるべく、子どもたちには、やりたいこと（習い事など）は、させてあげたいです。3人目も欲しいと思っていますが、もう子どもは2人で、金銭的に限界です。（5歳児）
- ③ 小学校低学年などもあずかり保育があると助かる。現代は家に一人にできない。実母も認知症であずけられない。（5歳児）

### (9) その他

- ① 子どもの貧困問題への取り組みに力を入れてほしい。貧富の格差で子どもが犠牲になってはいけない。教育は平等でなければならない。未来の日本を明るくするために、行政がもっと子供に関わるべきだと思う。  
(1歳児)
- ② 地域のおじいちゃんおばあちゃんとの関りが欲しい。施設に集ってイベントというより、もっと生活に密着したやり方。たとえば、登下校の付添い（集団登下校を一緒にしたり各信号での交通誘導等）をしてもらい、普段の生活の中でお互いが触れ合っていければと思います。シルバー人材の就職にも繋がると思うのですが。(1歳児)
- ③ 子育てについて悩んでいても、知らない人に相談するにも抵抗があるし、かといって身内に相談しても、聞いてくれないし、一緒に悩む様子もなく、ただ一人で悩み、きつくなることがある。こういう時に相談できる場所はあるのかもしれないが、勇気がでないし、気力もない。気持ちに余裕がなく子供をしっかりとつけて、自己嫌悪におちいって悪循環している。これをどうにかしたい！(5歳児)

